

【 一般診療所用 】

令和 8 年患者調査 調査の手引

患者調査について

統計法に基づき、国の重要な基幹統計調査として「患者調査」は、医療施設を利用する患者さんについて、その傷病の状況等の実態を明らかにし、医療行政の基礎資料を得ることを目的として、3年に一度、全国から層化無作為抽出により選ばれた医療施設を対象に実施しています。

※ 統計法では、基幹統計調査の調査対象者には報告義務があるとともに、調査を実施する関係者（国や地方自治体の職員など）には調査によって知ったことを他には漏らしてはならない守秘義務を規定しています。

※ ご回答いただいた内容は、統計の作成・分析の目的のみに使用します。統計以外の目的（税の資料など）に使用することは一切ありませんので、安心してご回答ください。

回答方法

調査票は、インターネットまたは郵送により、管轄の保健所が設定する提出期限までにご回答願います。

調査への回答は、ぜひインターネットをご利用ください！

インターネットでの回答にあたっては、同封の「オンライン回答のご案内（簡易ガイド）」を併せてご覧ください。

目次

1. 調査票の提出方法	1 ページ～
2. 電子調査票におけるデータ読込機能について	8 ページ
3. 調査日、調査の対象（退院・入院・外来）、調査票の種類	9 ページ～
4. 調査票の記入のしかた	13 ページ～
5. 患者調査関係法令	45 ページ～
6. 質疑応答	47 ページ～
調査後のアンケートへのご協力をお願い	61 ページ

1

2

3

4

5

6

アンケート

調査についてご不明な点は、下記にお問い合わせください。



【お問い合わせ先】 令和8年患者調査コールセンター

【フリーダイヤル】 ☎ 0120-677-881

【開設期間】 8月3日(月)～11月30日(月)

【受付時間】 月～金曜日(祝日を除く) 午前9時～午後6時

※ 1 以下の内容については、コールセンターでは対応できないため、管轄の保健所にお問い合わせください。

- ・ 提出期限に関すること
- ・ 紙の調査票が不足している場合

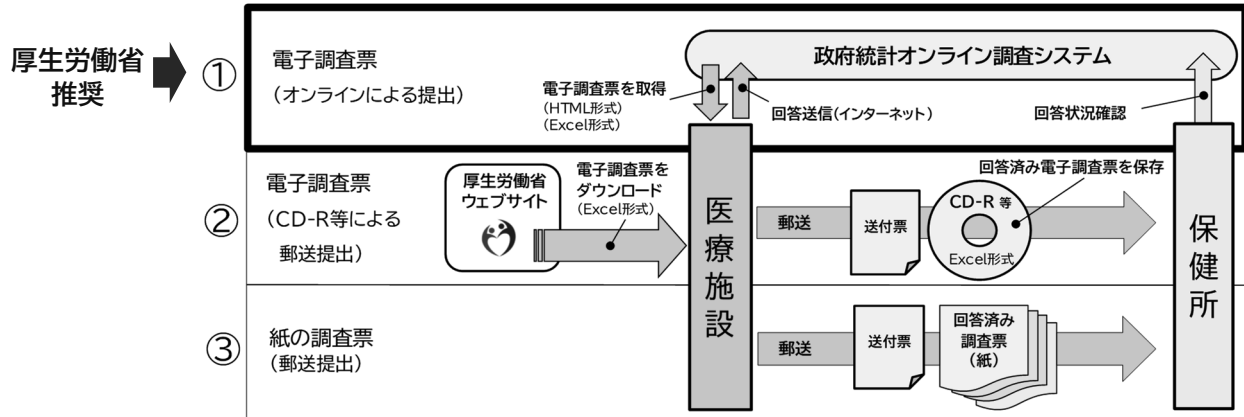
※ 2 厚生労働省ホームページにおいても、オンライン回答関連のマニュアルなどがご覧いただけます。

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/10-20.html>

→ アクセス後、「令和8年患者調査にご協力ください」をクリックください。

1. 調査票の提出方法

調査票の提出方法は、貴施設において以下の①～③の3つの方法により選択が可能です。



オンライン 	① 電子調査票での回答 (オンラインによる提出) ⇒ 回答方法は、同封の「オンライン回答のご案内 (簡易ガイド)」を参照
------------------	--

- インターネットを利用して、政府統計共同利用システムのオンライン調査システムにログインし、
 (HTML形式の場合) 電子調査票をWeb画面で入力します。
 (Excel形式の場合) 電子調査票 (マクロ付き Excel ファイル) をダウンロードして、入力します。
- 入力後のファイルは、提出期限までにオンライン調査システムで送信処理を行うことで提出が完了します。
 ※ 郵送や管理は不要。
 ※ 報告者のログイン情報や統計調査の回答情報などの重要な情報について、盗み見等を防ぎ、安全な通信を行うために、インターネット通信経路上の情報のやりとりを暗号化していることから、外部に漏れることはありません。

注 何らかの理由でオンライン回答が困難な場合には、②または③の方法での提出をお願いします。

CD-R等 	② 電子調査票での回答 (CD-R等による郵送提出) ⇒ 回答方法は、2ページ～を参照
------------------	---

- 厚生労働省ウェブサイトからダウンロードした電子調査票 (マクロ付き Excel ファイル) に入力します。
- CD-R等に保存し、提出期限までに郵送等で管轄の保健所へ提出します。

紙 	③ 紙の調査票での回答 (郵送提出) ⇒ 回答方法は、6ページ～を参照
--------------	---

- 保健所から配布される紙の調査票に記入後、提出期限までに郵送等で管轄の保健所へ提出します。



- 可能な限りすべての調査票を①～③のいずれか1つの方法で提出するようお願いします。
- やむを得ず①～③を併用する場合も、1種類の調査票内で複数の提出方法は混在させないでください。
 例1: 一般診療所票を、①と③で提出する → × (不可)
 例2: 一般診療所票を①で、一般診療所退院票を③で提出する → ○ (可)

電子調査票での回答方法（CD-R 等による郵送提出）

推奨利用環境

最新の推奨環境は、政府統計オンライン調査総合窓口の「推奨環境」
（https://www.e-survey.go.jp/recommended_env）をご確認ください。

（令和 8 年 6 月時点）

OS	ブラウザ	表計算ソフト ※2 (Excel 調査票をご利用の場合のみ)
Windows 11 ※ 1	Firefox 151 Google Chrome 148 Microsoft Edge 148	Excel for Microsoft 365 Microsoft Office Excel 2024 Microsoft Office Excel 2021
macOS 26	Safari 26	—

(※ 1) 「デスクトップモード」の場合に限ります。

(※ 2) 表計算ソフトにおける注意事項は以下のとおりです。

- ・ Microsoft Office Excel 以外の表計算ソフトには対応しておりません。
- ・ Excel のマクロ機能を有効にする必要があります。

Microsoft 365 又は Excel 2024 をご利用の場合、ActiveX コントロールの無効状態によって、マクロ機能が無効となっている場合があります。対応方法は、政府統計オンライン調査総合窓口の「推奨環境」（上記 URL）よりご確認ください。

また、Excel のマクロ機能が有効な場合においても、ご利用の環境により回答送信できない場合(*)があります。

(*)例えば、企業内ネットワークにおいて仮想ブラウザが採用されている場合等が想定されます。

STEP 1 CD-R 等提出用の電子調査票(Excel 形式)と操作マニュアルをダウンロード

● 厚生労働省ホームページ（URL は以下を参照）へ接続し、以下をダウンロードします。

- ・ 電子調査票（マクロ付き Excel ファイル）
- ・ 操作マニュアル「電子調査票利用ガイド」



厚生労働省ホームページ「患者調査」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/10-20.html>

患者調査

検索

アクセス後、「令和 8 年患者調査にご協力ください」をクリックください。

※電子調査票と操作マニュアルは、8 月下旬に公開予定です。

※ 1 ページの提出方法「① 電子調査票での回答（オンラインによる提出）」でダウンロードした電子調査票（Excel 形式）もご使用いただけます。

注 厚生労働省ホームページからダウンロードした電子調査票（Excel 形式）は、1 ページの提出方法「① 電子調査票での回答（オンラインによる提出）」では使用できません。

STEP 2 CD-R 等提出用の電子調査票 (Excel 形式) の環境設定を行う

- ダウンロードした電子調査票 (マクロ付き Excel ファイル) を開き、
操作マニュアル「電子調査票利用ガイド」に従って環境設定を行います。
- 環境設定が済んだら、「表紙」シートの右上「管理メニュー」ボタンから回答者情報を入力し、
「保存」ボタンを押します。

STEP 3 CD-R 等提出用の電子調査票 (Excel 形式) に回答を入力する

- 操作マニュアル「電子調査票利用ガイド」に従って、患者情報について電子調査票へ入力します。
 - 入力にあたって、各調査事項の記入のしかたや詳細は、13 ページ~を参照ください。
- ※ 入力はオフラインでの作業となります。
- ※ ダウンロードした電子調査票をコピーし、複数人で手分けして入力した後、1 つにまとめて提出することができます。
- ※ 電子調査票には、入力補助機能として、医療施設が保有する情報を、一部の調査票に読み込む機能を搭載していますので、ご活用ください。(8 ページを参照。)



次ページの **STEP 4** へお進みください

STEP 4 電子調査票(Excel形式)をCD-R等で提出する。

- ① 電子調査票への入力完了したら、「電子調査票利用ガイド」に従い、「提出用調査票ファイル作成」画面にて、提出用調査票ファイルを作成します。

※ 1回の実行で調査票1種類しか作成できませんので、必ず作成した調査票すべてについて実行してください。

- ② ①で作成された提出用調査票ファイルを、CD-R等にコピーします。

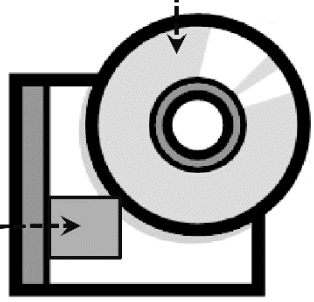
※ 書き換え防止の観点からCD-R、DVD-R、DVD+Rを推奨しますが、CD-RW、DVD-RW、DVD+RWも利用可能です。
なお、CD、DVD以外(USB等)の提出は不可です。



- CD-R等には、提出用調査票ファイル以外のもの(CD-R調査票本体、作成結果ログ等)をコピーしないでください。また、ファイルの圧縮やパスワードはかけないでください。
- 提出前に、CD-R等に提出用調査票ファイルのコピーが確実に入っていることを確認ください。
- 提出する電子調査票は、念のため輸送時の破損等に備え、必ずバックアップを取り、提出後1年間は保管し、その後は適切にデータを消去いただくようお願いします。
 - ※ 保健所から件数等についての問い合わせが入る可能性があります。

- ③ コピー後、CD-R等のディスク本体及びケースにラベルを貼りつけます。

ケースのラベルに記入する内容	< 記入例 >	【CD-R等の本体に記入する事項】
<ul style="list-style-type: none">① 調査名② 施設番号、施設名③ 施設所在地④ 提出年月日⑤ 都道府県名、管轄する保健所名⑥ 調査票ごとの記録件数	<ul style="list-style-type: none">① 患者調査② C-027 厚労クリニック③ 東京都千代田区霞が関1-2-2④ 令和8年11月15日提出⑤ 東京都 霞ヶ関保健所⑥ 一般診療所票 入院分: 10件 一般診療所票 外来分: 65件 一般診療所退院票 : 8件	<ul style="list-style-type: none">② C-027 厚労クリニック⑤ 東京都 霞ヶ関保健所



- ④ 送付票に施設名、調査票枚数等を記入します。

※ 送付票は、本冊子と一緒に管轄の保健所から配布していますのでご確認ください。

※ 送付票の記入方法は、5ページを参照ください。

- ⑤ 送付票・データを保存したCD-R等を梱包し、定められた期限までに管轄の保健所に郵送等で提出します。



- 提出の際は破損防止のため、ケース等にて梱包するようお願いします。
- 電子メールでの提出は受け付けていません。

＜送付票の記入例＞

※調査票（紙）と CD-R 調査票の 2 種類を提出する場合の例

文書番号は、
一般診療所の文書管理上記入が必要であればご記入ください。(任意)

患者調査送付票
(調査対象施設用)

(文書番号) 号
 令和 8 年 11 月 15 日

霞が関 保健所長 殿

施設名 **厚生労働診療所**

施設管理者氏名 **厚生 太郎**

担当者氏名 **厚生 次郎**

所属

連絡先 (TEL) **03-5253-1111**

令和 8 年患者調査について (送付)

令和 8 年患者調査の調査票を次のとおり送付します。

CD-R等の送付枚数	1 枚
------------	------------

	調査票(紙)	電子調査票 (CD-R等による提出)	電子調査票 (オンラインによる提出)			
			HTML形式	Excel形式		
			調査票枚数・患者数	データ件数	データ件数	データ件数
病院	病院入院 (奇数) 票	枚	件	件	件	
	病院外来 (奇数) 票	枚	件	件	件	
	病院(偶数)票	入院	調査票枚数	枚	件	件
			患者数	人		
	病院(偶数)票	外来	調査票枚数	枚	件	件
			患者数	人		
病院退院票	枚	件	件	件		
一般診療所	一般診療所票	入院	枚	12 件	件	件
		外来	枚	30 件	件	件
	一般診療所退院票	14 枚	件	件	件	
歯科	歯科診療所票	枚	件	件	件	

備考欄	
-----	--

注) 該当する欄のみ記入してください。
なお、電子調査票(オンラインによる提出)のみ提出の場合、この送付票の作成は不要です。

提出日を記入

施設情報等を記入

CD-R等の提出がある場合は、提出枚数を記入。

提出する調査票枚数(データ件数)を記入。

すべての調査票がオンライン回答(オンライン調査システムによる回答)の場合は、送付票の提出は不要です。

紙の調査票での回答方法（郵送提出）

STEP 1 紙の調査票を入手する

紙の調査票は、本冊子と一緒に管轄の保健所から配布していますのでご確認ください。

- **調査票（紙）が足りない場合**

追加配布いたします。管轄の保健所にご連絡ください。

- **調査票（紙）が不要な場合**

電子調査票を使用する等の理由で調査票（紙）が不要な場合は、お手数ですが貴施設で破棄をお願いします。

※ 管轄の保健所に返却する必要はありません。

STEP 2 紙の調査票に回答する

各調査事項の記入のしかたや詳細は、13 ページ～を参照ください。

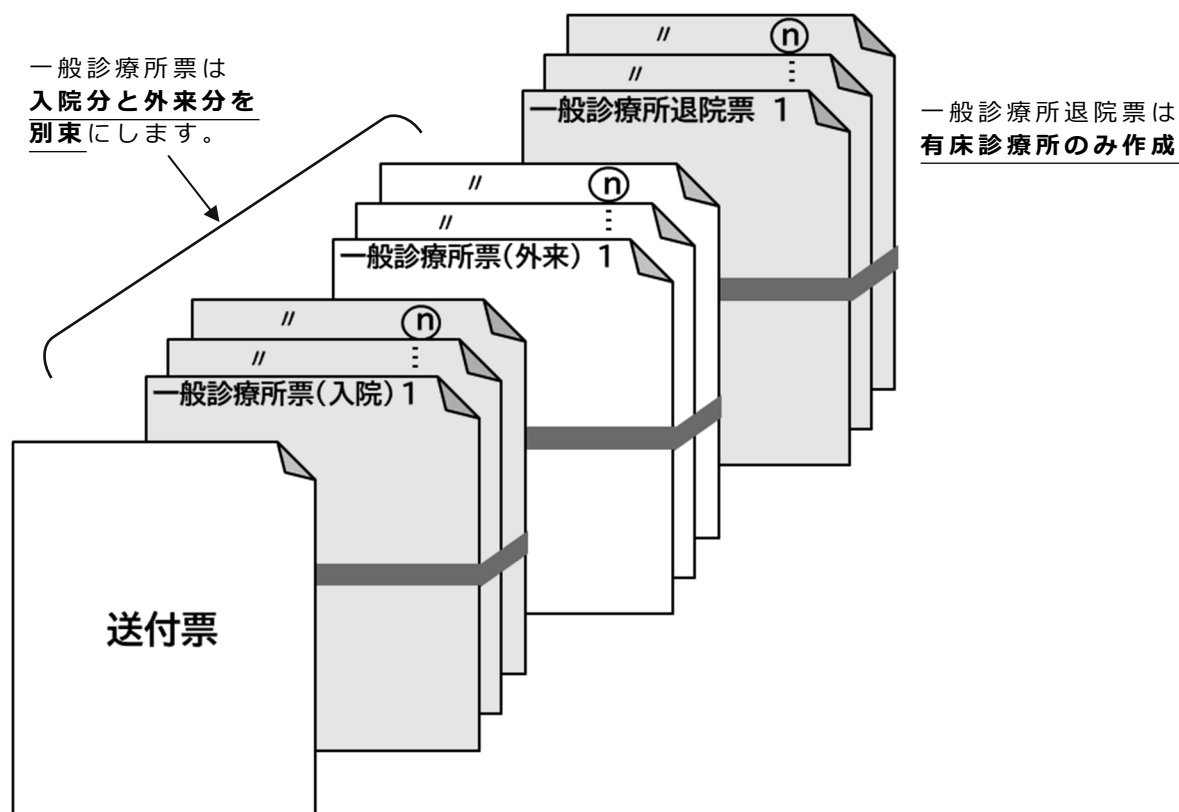


- 黒（青）インク又は黒（青）ボールペンなどの消えないインクを使用し、文字は楷書ではっきりと記入してください。
- 数字は、1・2・3…のように算用数字（アラビア数字）を用いて記入してください。
- 調査事項のうち選択項目の頭に数字が印刷してあるものは、該当する数字を○で囲んでください。
(例) ① 男 2 女
- 修正するときは2本の横線を引いて消し、上部の余白等を用いて修正後の回答を記入してください。
⇒ 修正液や修正テープを用いたり、紙を貼ったり、削って消したり、塗りつぶしたり等はしないでください。
- 記入後は、診療録（カルテ）等からの転記ミス、記入漏れがないか確認してください。

STEP 3 紙の調査票を提出する

- ① 調査票の種類ごとに、調査票右肩の患者番号の順に並べます。
- ② 各調査票の最後の患者番号を○で囲みます。
(下のイメージ図ではnと表しますが、各調査票の最後の患者番号のことを指します。)
- ③ 調査票の種類ごとに束ねます。
- ④ 送付票に施設名、調査票枚数等を記入します。
 - ※ 送付票は、本冊子と一緒に管轄の保健所から配布していますのでご確認ください。
 - ※ 送付票の記入方法は、5ページを参照ください。
- ⑤ 送付票と調査票が破損や散逸しないように封筒または箱等で梱包して、管轄の保健所に郵送等で提出します。
 - ※ 保健所への送付にかかる費用を負担する必要はありませんので、提出方法については保健所の指示にしたがってください。

<並べ方・束ね方のイメージ>



2. 電子調査票におけるデータ読込機能について

電子調査票には、入力補助機能として、医療施設が保有する情報を、調査票に読み込む機能を搭載していますので、ご活用ください。

既存の電子カルテ等の患者情報から作成したテキストデータ

全調査票

- 厚生労働省が指定するテキスト形式で調査票データをあらかじめ作成しておき、この読み込み機能を使用することにより、電子調査票の該当項目に読み込むことができます。
- 一部空欄の項目があっても読み込みは可能ですが、未入力の項目については、読み込み後に電子調査票に手作業で入力する必要があります。

※ テキスト形式のデータ作成方法は、厚生労働省ホームページに掲載しています。

操作方法等の詳細は、厚生労働省ホームページ掲載の「電子調査票利用ガイド」を参照ください。



厚生労働省ホームページ「患者調査」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/10-20.html>

患者調査

検索

アクセス後、「令和8年患者調査にご協力ください」をクリックください。

※電子調査票と操作マニュアルは、8月下旬に公開予定です。

3. 調査日、調査の対象(退院・入院・外来)、調査票の種類

3-1 調査日、調査対象の患者、調査票の種類

<有床診療所の場合>

- 以下の患者について、患者1人につき調査票を1枚ずつ作成します。

令和8年9月中(9月1日から9月30日までの1か月間)に	貴施設を退院した患者	⇒ 退院
令和8年10月の調査日(厚生労働省が指定する1日)に	貴施設に入院していた患者	⇒ 入院
	貴施設を外来受診した患者	⇒ 外来

※ 調査日とは、その日の午前0時から当日の24時までを指します。

- 貴施設における「調査日」は、同封の「調査へのご協力をお願い」に記載していますので、ご確認ください。

<例> 「調査へのご協力をお願い」の調査日、調査の対象

調査へのご協力をお願い

施設番号	(〇〇県) C-001	
調査日	10月20日	※患者調査の退院患者の調査期間は 令和8年9月1日～9月30日
調査の対象	入院・外来・退院	

↓

- ・9月1日～30日の間に 退院したすべての患者
- ・10月20日に 入院していたすべての患者
- ・10月20日に 外来を受診したすべての患者

について調査票を作成します。

- 作成する調査票の種類は、2種類あります。

調査票の種類	対象患者	調査項目
一般診療所退院票	退院患者用	性別、生年月日、患者の住所、受療の状況(主傷病名など)、診療費等支払方法 等
一般診療所票 [※]	入院患者用	
	外来患者用	

※ 一般診療所票は入院・外来で同じ種類の調査票を使用しますが、記入の際は入院分、外来分を別々に作成します。

- 調査対象の退院、入院、外来の患者の詳細については、

11 ページの **3-2 退院について** **3-3 入院について** **3-4 外来について** をご覧ください。

<無床診療所の場合>

- 以下の患者について、患者1人につき調査票を1枚ずつ作成します。

令和8年10月の調査日（厚生労働省が指定する1日）に 貴施設を外来受診した患者 ⇒ 外来

※ 調査日とは、その日の午前0時から当日の24時までを指します。

- 貴施設における「調査日」は、同封の「調査へのご協力のお願ひ」に記載していますので、ご確認ください。

<例> 「調査へのご協力のお願ひ」の調査日、調査の対象

調査へのご協力のお願ひ	
施設番号	(〇〇県) C-001
調査日	10月23日
調査の対象	外来

↓

・10月23日に 外来を受診したすべての患者
について調査票を作成します。

- 作成する調査票の種類は、1種類です。

調査票の種類	対象患者	調査項目
一般診療所票	外来患者用	性別、生年月日、患者の住所、受療の状況（主傷病名など）、診療費等支払方法 等

- 調査対象の外来の患者の詳細については、11ページの **3-4 外来について** をご覧ください。



入院患者、外来患者、退院患者がいなかった等の理由で、9・10月の調査日の患者数が0人だった場合、調査票への回答・提出の必要はありませんので、管轄の保健所に患者数が0人であることをご連絡ください。

3-2 退院について・・・一般診療所退院票

- 9月中に退院したことが診療録（カルテ）に記録されているすべての患者について、患者1人の1回の退院につき1枚作成します。

退院 として調査票を作成する患者	
○	傷病の診断・治療だけでなく、検査入院、正常分娩、リハビリ、短期入所療養介護（ショートステイ）等も含む。
	入院した当日に退院した患者
	9月中に2回以上退院した患者(それぞれの退院について1枚作成し、患者番号は別々の番号とする。)
	9月中に、その病床に入院している目的とは別の目的のために転床した患者 ⇒ 質疑応答 問83
× 不要	健康上問題がない新生児 (ただし、何らかの疾患を有し、治療が行われた場合は調査票を作成します。) ⇒ 質疑応答 問11
	9月中に、その病床に入院している目的と同じ目的のために転床した患者 ⇒ 質疑応答 問15
	9月中に休診に入る診療所は、退院票の作成は必要ありません。 ⇒ 質疑応答 問4

3-3 入院について・・・一般診療所票

- 10月の調査日に入院していたことが診療録（カルテ）に記録されているすべての患者について作成します。

入院 として調査票を作成する患者	
○	傷病の診断・治療だけでなく、検査入院、正常分娩、リハビリ、短期入所療養介護（ショートステイ）等も含む。
	10月の調査日に外来で診療し、そのまま同一傷病で入院した患者
	10月の調査日に入院し、その日のうちに退院した患者
× 不要	健康上問題がない新生児 (ただし、何らかの疾患を有し、治療が行われた場合は調査票を作成します。) ⇒ 質疑応答 問11

3-4 外来について・・・一般診療所票

- 10月の調査日に外来を受診したことが診療録（カルテ）に記録されているすべての患者について作成します。

外来 として調査票を作成する患者	
○	傷病の診断・治療だけでなく、正常分娩、健康診断、予防接種、リハビリ等も含む。
× 不要	入院中の患者が、調査日に外来を受診した場合は、入院分のみ作成し、外来分は作成しません。

よくある質問

⇒ 質疑応答 問3～17 を参照

● 調査日当日が休診の場合の対応方法	⇒ 質疑応答 問3, 4 へ
● 介護医療院の場合	⇒ 質疑応答 問6 へ
● 自施設が何度も調査対象になるのはなぜか	⇒ 質疑応答 問7 へ
● 調査日の夜に急患で来た患者について治療を続け、日付が変わってから入院の手続きをした場合は入院分の対象となるか。	⇒ 質疑応答 問9 へ
● 市町村主催の健康診断を施設が受託している場合、健康診断を受けに来た患者の場合	⇒ 質疑応答 問13 へ
● 同一外来患者が調査日に2回以上受診した場合（同日再診）	⇒ 質疑応答 問16 へ
● 同一外来患者が調査日に独立した診療科2科以上の診療を受けた場合	⇒ 質疑応答 問17 へ

4. 調査票の記入のしかた

調査票の記入に際し不明な点などがありましたら、
表紙に記載されているコールセンターの電話番号まで、お問い合わせください。

● 4 - 1	一般診療所退院票	14 ページ
● 4 - 2	一般診療所票	18 ページ
● 4 - 3	各項目の詳細	22 ページ
	「患者の住所」	22 ページ
	「過去の入院の有無」	23 ページ
	「外来の種別」	25 ページ
	「受療の状況」	26 ページ
	「受療の状況-主傷病名」	28 ページ
	「受療の状況-肝疾患の状況」	31 ページ
	「受療の状況-外傷の原因」	32 ページ
	「受療の状況-副傷病名」	33 ページ
	「診療費等支払方法」	34 ページ
	「病床の種別」	38 ページ
	「紹介の状況」	38 ページ
	「来院時の状況」	39 ページ
	「入院の状況」	40 ページ
	「入院前の場所」	41 ページ
	「手術の有無」	43 ページ
	「転帰」	43 ページ
	「退院後の行き先」	44 ページ

4-1 一般診療所退院票 記入のしかた

【表面】

※紫色の紙調査票

(1) 性別

- いずれかの1つの数字を○で囲みます。

(2) 出生年月日

- 元号の数字を1つ○で囲み、出生年月日を記入します。

※ 出生年月日が明らかでない場合は、推定年齢を「推定○歳」と記入します。

(3) 患者の住所

- 「1 当院と同じ都道府県内」「2 当院とは別の都道府県」のいずれかの数字を○で囲みます。
(保険証の住所と実際に住んでいる場所が異なる場合、実際に住んでいる場所を優先します。)

- 「2」を選択した場合は、右欄に都道府県名を記入します。

※ 1 外国人旅行者の場合は、「2」を選び枠内に「外国」と記入します。

※ 2 住所不定または不詳の場合は、「2」を選び枠内に「不詳」と記入します。

(4) 過去の入院の有無

★詳細は 23 ページ～参照

※ 「(7) 受療の状況」で「1 傷病の診断・治療」以外の選択肢を選ぶ場合は、「(4) 過去の入院の有無」を「2 無」とします。

- 今回の入院日（「(5) 入院年月日」で回答する日付）から遡って過去30日以内に貴施設への入院があったとき、次の条件①～④をすべて満たす場合に「1 有」に○を付け、前回の退院年月日を記入します。

- ① 前回の入院が、今回の入院の主傷病（「(7)-(1)主傷病名」で回答する疾患）に関連したものである
- ② 前回の入院も同じ医療施設における入院である
- ③ 前回の退院から30日以内に今回の入院をしている（過去30日の早見表及び「1 有」となる例 ⇒ 23,24 ページ）
- ④ 前回の退院年が令和及び平成である

- 今回の入院日から遡って過去30日以内に入院がなかった場合、または入院があっても上記の条件を満たさない場合、「2 無」を○で囲みます。



統計法に基づく国の基幹統計調査です。
調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

患者

一般診療所

令和8年9月

記入上の注意
※印欄には、記入しないでください。

(1) 性別	1 男 2 女	(2) 出生年月日	1												
(3) 患者の住所	1 当院と同じ都道府県内 2 当院とは別の都道府県 →														
(4) 過去の入院の有無	1 有 → 退院年月日 1 2 無														
(5) 入院年月日	1 令和 2 平成 3														
(6) 退院年月日		令和 8													
(7) 受療の状況	<p>1~5のうち、該当するもの1つに○をつけ、矢印を記入してください。</p> <p>1 傷病の診断・治療 2 正常分娩 3 正常妊娠</p> <p>(1)と(2)へ ↓</p> <p>(1) 主傷病名</p> <p>主傷病名が外傷(中毒を含む)の場合</p> <table border="1"> <tr> <td>外傷の原因 (中毒を含む)</td> <td>不慮の事故</td> </tr> <tr> <td>1 自動車交通事故</td> <td>2 自転車交通事故</td> </tr> <tr> <td>3 その他の交通</td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 副傷病名(該当するものすべてに○)</p> <table border="1"> <tr> <td>01 副傷病なし</td> </tr> <tr> <td>02 糖尿病(合併症を伴わないもの)</td> </tr> <tr> <td>03 糖尿病(性)腎症</td> </tr> <tr> <td>04 糖尿病(性)眼合併症</td> </tr> <tr> <td>05 糖尿病(性)神経障害</td> </tr> <tr> <td>06 03~05以外の合併症を伴う糖尿病</td> </tr> </table>			外傷の原因 (中毒を含む)	不慮の事故	1 自動車交通事故	2 自転車交通事故	3 その他の交通		01 副傷病なし	02 糖尿病(合併症を伴わないもの)	03 糖尿病(性)腎症	04 糖尿病(性)眼合併症	05 糖尿病(性)神経障害	06 03~05以外の合併症を伴う糖尿病
外傷の原因 (中毒を含む)	不慮の事故														
1 自動車交通事故	2 自転車交通事故														
3 その他の交通															
01 副傷病なし															
02 糖尿病(合併症を伴わないもの)															
03 糖尿病(性)腎症															
04 糖尿病(性)眼合併症															
05 糖尿病(性)神経障害															
06 03~05以外の合併症を伴う糖尿病															
<p>主傷病病名については、発病の型、病因、部位、性状、重症度等も記入してください。</p> <p>例： ・アルコール性急性膵炎 ・慢性腎臓病、ステージ4 ・胃噴門部の悪性新生物 ・未分化大細胞型リンパ腫、ALK陰性 ・後天性溶血性貧血</p> <p>「15精神疾患」とは、以下の疾患をいいます。 ・アルツハイマー病を含む認知症 ・精神作用物質による精神及び行動の障害 ・統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 ・気分[感情]障害 ・神経症性障害 ・てんかん ・その他の精神及び行動の障害</p> <p>(ただし「知的障害<精神遅滞>」は除きます。)</p>															

裏面に続

調査 所退院票

日1日～30日

※保健所符号	
施設番号	C-
患者番号	

令和 2 平成 3 昭和 4 大正 5 明治 年 月 日

都道
府県

令和 2 平成 年 月 日

と貴院における入院であって、退院日が「(5)入院年月日」
ます。(退院年が令和及び平成の場合のみ。)
の「(1)主傷病名」に記載する疾患をいいます。

昭和 年 月 日

年 9 月 日

印によって続けて記入してください。

(単胎自然分娩) 4 健康者に対する検査、健康診断(査)・管理
産じよくの管理 5 その他の保健サービス

場合は、該当するものに○印をつけてください。

故意又は不明	7 自傷
事故 4 スポーツ中の事故	8 他傷
事故 5 転倒・転落	9 不明
事故 6 1～5以外の原因による不慮の事故	

印をつけてください。)

07 肥満(症)	12 閉塞性末梢動脈疾患
08 脂質異常症 (高コレステロール血症等)	13 大動脈疾患 (大動脈解離、大動脈瘤)
09 高血圧(症)	14 慢性腎臓病(慢性腎不全等)
10 虚血性心疾患	15 精神疾患
11 脳卒中	16 その他の疾患

続きます。

施設番号

- 別紙「調査へのご協力をお願い」に記入された施設番号の数字3桁を転記します。
- 番号が3桁に満たない場合(1～99)は、001～099のように「0(ゼロ)」で埋めます。

患者番号

記入終了後、1から始まる一連番号を記入し、最後の番号を○で囲みます。(例：調査票が全部で5枚の場合、最後の調査票の患者番号は「⑤」とします。)

(5) 入院年月日

- 今回の入院年月日について、元号の数字を1つ○で囲み、年月日を記入します。

(6) 退院年月日

- 今回の入院について、令和8年9月中の退院日を記入します。

(7) 受療の状況

★詳細は26ページ～参照

- 受療の状況について、1～5の中から**該当する数字を1つ**選び、○で囲みます。
- 1を選択した場合は主傷病名の質問へ。
- 2から5を選択した場合は(8)診療費等支払方法の質問へ。

主傷病名

受療の状況が「1 傷病の診断・治療」の場合は、調査日現在、入院の理由となっている傷病名を**1つ**記入します。

★詳細は28ページ～参照

主傷病名が外傷の場合

外傷の原因

主傷病名が外傷(毒物やガス等による中毒を含む)の場合は、その原因に**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。

★詳細は32ページ参照

主傷病名が外傷以外の場合

副傷病名

- 受療の状況が「1 傷病の診断・治療」の場合は、**該当する数字をすべて**選び○で囲みます。(他院で受療している傷病も、わかる範囲で回答します。)

- ※ 1 調査日において、治療や検査を受けていない傷病も含みます。
- ※ 2 主傷病名以外の傷病がない場合は、「01 副傷病なし」の数字を○で囲みます。

★詳細は33ページ参照

4-1 一般診療所退院票 記入のしかた 【裏面】 ※紫色の紙調査票

(8) 診療費等支払方法

- 今回の入院に関する支払方法の「負担区分」について、1～3の中から**該当する数字をすべて**○で囲みます。
 - 負担区分「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合は、右欄の「I 医療保険等」と「II 公費負担医療」について、01～11の中から**該当する数字をすべて**○で囲みます。
- ※1 IとIIは同時に選択可能です。両方に該当する場合は、それぞれ該当する数字を○で囲みます。
- ※2 該当するものがIIのみの場合は、Iへの回答は不要です（「07 その他」にも○の必要はありません）。また、逆の場合も同様です。

★詳細は 34 ページ～参照

(12) 手術の有無

- 入院中における主傷病名に関する手術の有無について、「1 有 2 無」のどちらか1つ選び、○で囲みます。
- 「1 有」の場合は手術日を記入します。
- (7)受療の状況が「2 正常分娩（単胎自然分娩）」または「3 正常妊娠・産じよの管理」の場合は、「2 無」とします。

★詳細は 43 ページ参照

(13) 転帰

- 退院の事由について、**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。

★詳細は 43 ページ参照

(14) 退院後の行き先

- 退院後の居場所と受療形態について、1～12の中から**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。
（家庭からの通院については、主傷病以外についても含めて判断します。）

★詳細は 44 ページ参照

(8) 診療費等支払方法	<p>※1～3のうち、該当するものすべてに○をつけてください。</p> <p>1 自費診療 (保険外併用療養費を含む)</p> <p>2 医療保険等、公費負担医療</p> <p>3 介護保険 (介護扶助を含む)</p> <p>※介護保険サービス利用者で、医療保険等と公費負担医療を併用している場合は、それらの両方について選択してください。</p>	<table border="1"> <tr> <td>I</td> <td>医療保険等</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>公費負担医療</td> </tr> </table>	I	医療保険等	II	公費負担医療
I	医療保険等					
II	公費負担医療					
(9) 病床の種類	1 療養病床 2 一般病床					
(10) 入院前の場所	家庭 { 1 当院に通院 2 他の病院・診療所に入院 { 5 地域医療支援病院・特定機能病院 8 介護医療院に入所 9 11 社会福祉施設に入所 12					
(11) 来院時の状況	1 通常の受診 2 救急の受診 ↓ 「2」又は「1」 1 診療時					
(12) 手術の有無	1 有 → 手術日 1 令和 2 無					
(13) 転帰	1 治癒 2 軽快 3					
(14) 退院後の行き先	家庭 { 1 当院に通院 2 他の病院・診療所に入院 { 5 地域医療支援病院・特定機能病院 8 介護医療院に入所 9 11 社会福祉施設に入所 12					

左列の「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合、「I 医療保険等」及び「II 公費負担医療」の01～11に該当するものすべてに○をつけてください。

- 01 健康保険・各種共済組合(本人)
 - 02 健康保険・各種共済組合(家族)
 - 03 国民健康保険
 - 04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)
 - 05 労働災害・公務災害
 - 06 自動車損害賠償保障法
 - 07 その他
-
- 08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
 - 09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(育成医療、更生医療)
 - 10 生活保護法(医療扶助)
 - 11 その他の公費負担によるもの

(9) 病床の種別

- 調査日時点で入院していた病床について、**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。
- 病床の種類が入院中に変更になった場合は、退院時の病床の種類とします。

★詳細は 38 ページ参照

療所に通院 3 在宅医療(訪問診療・訪問看護等) 4 その他

病院 6 その他の病院 7 診療所

介護老人保健施設に入所 10 介護老人福祉施設に入所
その他(新生児・不明等)

車により搬送 3 徒歩や自家用車等による救急の受診

は「3」の場合は、どちらかに○印をつけてください。

診療時間内の受診 2 診療時間外の受診

2 平成 年 月 日

不変 4 悪化 5 死亡 6 その他

療所に通院 3 在宅医療(訪問診療・訪問看護等) 4 その他

病院 6 その他の病院 7 診療所

介護老人保健施設に入所 10 介護老人福祉施設に入所
その他(不明等)

(10) 入院前の場所

- 入院前の居場所と受療形態について、1～12の中から**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。(家庭からの通院については、主傷病以外についても含めて判断します。)

★詳細は 41 ページ～参照

(11) 来院時の状況

★詳細は 39 ページ参照

- 入院時の状況について、1～3の中から**該当する数字を1つ**選び、○で囲みます。
- 2または3を選択した場合は、診療時間の内外の質問へ。

診療時間の内外

「救急の受診」の場合、診療所で表示する診療時間内に受診であったかどうか、**どちらか1つ**選び、○で囲みます。

4-2 一般診療所票 記入のしかた

【表面】

※黄色の紙調査票

(1) 性別

- いずれかの1つの数字を○で囲みます。

(2) 出生年月日

- 元号の数字を1つ○で囲み、出生年月日を記入します。
- ※ 出生年月日が明らかでない場合は、推定年齢を「推定○歳」と記入します。

(3) 患者の住所

- 「1 当院と同じ都道府県内」「2 当院とは別の都道府県」のいずれかの数字を○で囲みます。
(保険証の住所と実際に住んでいる場所が異なる場合、実際に住んでいる場所を優先します。)
- 「2」を選択した場合は、右欄に都道府県名を記入します。
- ※ 1 外国人旅行者の場合は、「2」を選び枠内に「外国」と記入します。
- ※ 2 住所不定または不詳の場合は、「2」を選び枠内に「不詳」と記入します。

(4) 入院・外来の種別等

<入院年月日>

- 今回の入院年月日について、元号の数字を1つ○で囲み、今回の入院年月日を記入します。
- ※ 診療報酬算定上の起算日ではなく、実際の入院年月日を記入します。

<外来の種別等> ★詳細は25ページ参照

- 1~6の中から、**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。
(必ずしも、診療報酬請求上の取り扱いとは一致しません。)
- 3~6を選択した場合は、前回診療(訪問月日)の質問へ。

前回診療(訪問月日)

「(4) 外来の種別」で再来(3~6)を選択した場合は、前回の診療月日又は前回訪問月日を必ず記入します。



統計法に基づく国の基幹統計調査です。
調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

記入上の注意
※印欄には、記入しないでください。

患者
一般診

令和8年10月20・21・22

(1) 性別	1 男 2 女	(2) 出生年月日	1
(3) 患者の住所	1 当院と同じ都道府県内 2 当院とは別の都道府県 →		
(4) 入院・外来の種別等	入院	入院年月日	1 令和 2
	外来	初診	1 通院 2 往診
	再来	3 通院 5 訪問診療 4 往診 6 医師以外の	
(5) 受療の状況	1~6のうち、該当するもの1つに○をつけ、 1 傷病の診断・治療 (1)と(2)へ 2 正常分娩 3 正常妊婦 4 健康者 →表面		
主傷病名について は、発病の型、病因、 部位、性状、重症度等 も記入してください。			
例: ・アルコール性急性 膵炎 ・慢性腎臓病、ステロ イド ・胃噴門部の悪性新 生物 ・未分化大細胞型リン パ腫, ALK陰性 ・後天性溶血性貧血			
「15精神疾患」とは、 以下の疾患をいいま す。 ・アルツハイマー病を 含む認知症 ・精神作用物質による 精神及び行動の障害 ・統合失調症、統合失 調症型障害及び妄想 性障害 ・気分[感情]障害 ・神経症性障害 ・てんかん ・その他の精神及び行 動の障害 (ただし「知的障害< 精神遅滞>」は除きま す。)			
肝疾患の状況		1 B型肝炎ウイルス 2 C型肝炎ウイルス 3 B型肝炎ウイルス 4 B型肝炎ウイルス	
外傷の原因 (中毒を含む)		不慮の事故 1 自動車交通事故 2 自転車交通事故 3 その他の交通	
(2) 副傷病名(該当するものすべてに○)			
01 副傷病なし			
02 糖尿病(合併症を伴わないもの)			
03 糖尿病(性)腎症			
04 糖尿病(性)眼合併症			
05 糖尿病(性)神経障害			
06 03~05以外の合併症を伴う糖尿病			

裏面に

調査
療所票

23日 (指定された1日)

※保健所符号	
施設番号	C-
患者番号	

令和 2平成 3昭和 4大正 5明治 年 月 日

都道府県

平成 3昭和 年 月 日

「3」～「6」の場合は、月日を記入してください。
 前回診療月日又は前回訪問月日
 令和 8年 月 日

天印にそって続けて記入してください。

分娩 (単胎自然分娩) 5 予防接種
 産後・産じよくの管理 6 その他の保健サービス
 に対する検査、健康診断 (査) ・管理

「肝臓がん」又は「肝及び肝内胆管の悪性新生物」の場合は、
 記入してください。

肝炎ウイルス (HBV) 陽性
 肝炎ウイルス (HCV) 陽性
 肝炎ウイルス (HBV) 及びC型肝炎ウイルス (HCV) ともに陽性
 肝炎ウイルス (HBV) 及びC型肝炎ウイルス (HCV) ともに陰性

場合は、該当するものに○印をつけてください。

故意又は不明

事故 4 スポーツ中の事故
 事故 5 転倒・転落
 事故 6 1～5以外の原因による不慮の事故

7 自傷
 8 他傷
 9 不明

○印をつけてください。)

07 肥満 (症)	12 閉塞性末梢動脈疾患
08 脂質異常症 (高コレステロール血症等)	13 大動脈疾患 (大動脈解離、大動脈瘤)
09 高血圧 (症)	14 慢性腎臓病 (慢性腎不全等)
10 虚血性心疾患	15 精神疾患
11 脳卒中	16 その他の疾患

続きます。 ↓

施設番号

- 別紙「調査へのご協力をお願い」に記入された施設番号の数字3桁を転記します。
- 番号が3桁に満たない場合 (1～99) は、001～099のように「0 (ゼロ)」で埋めます。

患者番号

記入終了後、1 から始まる一連番号を記入し、最後の番号を○で囲みます。(例：調査票が全部で5枚の場合、最後の調査票の患者番号は「⑤」とします。)

(5) 受療の状況

★詳細は 26 ページ～参照

- 受療の状況について、1～6の中から**該当する数字を1つ**選び、○で囲みます。
- 1 を選択した場合は主傷病名の質問へ。
- 2 から6を選択した場合は (6) 診療費等支払方法の質問へ。

主傷病名

受療の状況が「1 傷病の診断・治療」の場合は、調査日現在、主として治療または検査をしている傷病名を**1つ**記入します。

★詳細は 28 ページ～参照

主傷病名が**肝疾患**の場合

肝疾患の状況

主傷病名が肝疾患の場合、1～4の中から**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。

★詳細は、31 ページ参照

主傷病名が**外傷**の場合

外傷の原因

主傷病名が外傷 (毒物やガス等による中毒を含む) の場合は、その原因に**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。

★詳細は 32 ページ参照

主傷病名が**肝疾患、外傷以外**の場合

副傷病名

- 受療の状況が「1 傷病の診断・治療」の場合は、**該当する数字をすべて**選び○で囲みます。(他院で受療している傷病も、わかる範囲で回答します。)

※ 1 調査日において、治療や検査を受けていない傷病も含まれます。

※ 2 主傷病名以外の傷病がない場合は、「01 副傷病なし」の数字を○で囲みます。

★詳細は 33 ページ参照

4-2 一般診療所票 記入のしかた 【裏面】

※黄色の紙調査票

(6) 診療費等支払方法

- 支払方法の「負担区分」について、
1～3の中から**該当する数字をすべて**○で囲みます。
 - 負担区分「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合は、
右欄の「I 医療保険等」と「II 公費負担医療」について、
01～11の中から**該当する数字をすべて**○で囲みます。
- ※1 IとIIは同時に選択可能です。両方に該当する場合は、
それぞれ該当する数字を○で囲みます。
- ※2 該当するものがIIのみの場合は、Iへの回答は不要です
(「07 その他」にも○の必要はありません)。
また、逆の場合も同様です。

★詳細は 34 ページ～参照

(9) 病床の種別

- 調査日現在の入院していた病床について、
1～2の中から**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。

★詳細は 38 ページ参照

(10) 入院の状況

- 調査日現在の入院患者の状況について、
1～5の中から**該当する数字を1つ**選び○で囲みます。
- ※ 「3 受け入れ条件が整えば退院可能」は、退院が決まらない患者に対する選択肢であるため、すでに退院が決まっている患者については、これ以外から選択することになります。

★詳細は 40 ページ参照

(6) 診療費等 支払方法	※1～3のうち、該当するもの すべてに○をつけてください。	
	1 自費診療 (保険外併用 療養費を含む)	I 医療保険等
	2 医療保険等、 公費負担医療	II 公費負担医療
	3 介護保険 (介護扶助を含む) <small>※介護保険サービス 利用者で、医療保険等と 公費負担医療を併用 している場合は、 それらの両方について 選択してください。</small>	
(7) 紹介の状況	1 病院から	4
	2 一般診療所から	5
	3 歯科診療所から	6
(8) 来院時の状況	1 通常を受診	2 救急の受診
		「2」又 ↓ 1 診療時
(9) 病床の種別	1 療養病床	2 一般病
	(10) 入院の状況 調査日現在の状況を選択してください	
	1 生命の危険は少ないが入院	
	2 生命の危険がある	
	3 受け入れ条件が整えば退院	

4-3 各項目の詳細

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

患者の住所

一般診療所退院票

一般診療所票

(3)

(3)

- 患者の住所が当院と同じ都道府県か別かで判断ください。

※ 保険証の住所と実際に住んでいる場所が異なる場合は、実際に住んでいる場所を優先します。

A 患者の住所が国内の場合

患者の住所が診療所の所在地と

- ・ 同じ都道府県の場合は「1」を○で囲みます。
- ・ 異なる都道府県のときは「2」を○で囲み、患者の住所の都道府県名を記入します。

(記入例)異なる都道府県の場合

1 当院と同じ都道府県内		
② 当院とは別の都道府県	→	東京 <small>都道府県</small>

B 患者が外国人旅行者

患者が外国人旅行者の場合、「2」を○で囲み、「外国」と記入します。

(記入例)

1 当院と同じ都道府県内		
② 当院とは別の都道府県	→	外国 <small>都道府県</small>

C 患者の住所が不定または不詳

患者の住所が不定または不詳の場合、「2」を○で囲み、「不詳」と記入します。

(記入例)

1 当院と同じ都道府県内		
② 当院とは別の都道府県	→	不詳 <small>都道府県</small>

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

過去の入院の有無

一般診療所退院票	一般診療所票
(4)	—

- 今回の退院の際に入院の原因となっていた主傷病(※1)と関連し、過去に貴施設に入院したことがあったかどうか、「1 有 2 無」のいずれかの数字を○で囲みます。

※1 主傷病とは、「(7)受療の状況」の「(1)主傷病名」に記載する疾患をいいます。 → 28 ページ

- 次の条件をすべて満たす場合、過去の入院の有無を「1 有」とします。

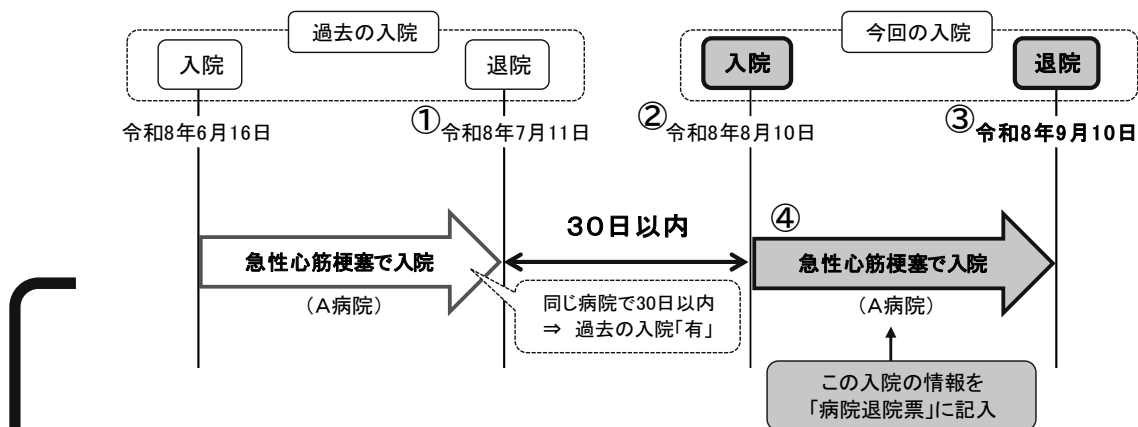
- ・ 前回の入院が、今回の入院の主傷病に関連したものである
- ・ 前回の入院も同じ医療施設における入院である
- ・ 前回の退院から30日以内(※2)に今回の入院をしている
- ・ 前回の退院年が令和及び平成である

※2 「(5)入院年月日」から遡って過去30日以内とは、今回の入院日の前日を起算日(入院日を0、その前日から1と数える)として遡って30日以内に退院日がある場合をいいます。 → 次ページ<“30日以内”早見表>を参照

注 転床による再入院は該当しません。一度、院外へ退院してからの再入院が対象となります。

- 「1 有」を選んだ場合は、その退院年月日を記入します。

< 「1 有」の例とその記入例 >



調査票への記入例

① (4) 過去の入院の有無	① 有 → 退院年月日 ①令和 2平成 8年 7月 11日 2 無
② (5) 入院年月日	①令和 2平成 3昭和 8年 8月 10日
③ (6) 退院年月日	令和 8年 9月 10日
④ (7) 受療の状況	1~5のうち、該当するもの1つに○をつけ、矢印にそって続けて記入してください。 ① 傷病の診断・治療 (1)と(2)へ ② 正常分娩(単胎自然分娩) ④ 健康者に対する検査、健康診断(査)・管理 ③ 正常妊娠・産じよくの管理 ⑤ その他の保健サービス →裏面へ (1) 主傷病名 急性心筋梗塞

< “30日以内”早見表 >

下記の「今回の入院の入院日」と「前回の入院の退院日」の組み合わせが30日以内を表しています。

今回の入院の入院日		前回の入院の退院日		
1, 2, 4, 6, 8, 9, 11月	1日	前月	2日	以降
	2日		3日	
	3日		4日	
	4日		5日	
	5日		6日	
	6日		7日	
	7日		8日	
	8日		9日	
	9日		10日	
	10日		11日	
	11日		12日	
	12日		13日	
	13日		14日	
	14日		15日	
	15日		16日	
	16日		17日	
	17日		18日	
	18日		19日	
	19日		20日	
	20日		21日	
	21日		22日	
	22日		23日	
	23日		24日	
	24日		25日	
	25日		26日	
	26日		27日	
	27日		28日	
	28日		29日	
	29日		30日	
	30日		31日	
		31日	同月	
5, 7, 10, 12月	1日	前月	1日	以降
	2日		2日	
	3日		3日	
	4日		4日	
	5日		5日	
	6日		6日	
	7日		7日	
	8日		8日	
	9日		9日	
	10日		10日	
	11日		11日	
	12日		12日	
	13日		13日	
	14日		14日	
	15日		15日	
	16日		16日	
	17日		17日	
	18日		18日	
	19日		19日	
	20日		20日	
	21日		21日	
	22日		22日	
	23日		23日	
	24日		24日	
	25日		25日	
	26日		26日	
	27日		27日	
	28日		28日	
	29日		29日	
	30日		30日	
		31日	同月	
今回の入院の入院日		前回の入院の退院日		
3月	1日	1月	30日	以降
	2日		31日	
	3日		1日	
	4日		2日	
	5日		3日	
	6日		4日	
	7日		5日	
	8日		6日	
	9日		7日	
	10日		8日	
	11日		9日	
	12日		10日	
	13日		11日	
	14日		12日	
	15日		13日	
	16日		14日	
	17日		15日	
	18日		16日	
	19日		17日	
	20日		18日	
	21日		19日	
	22日		20日	
	23日		21日	
	24日		22日	
	25日		23日	
	26日		24日	
	27日		25日	
	28日		26日	
	29日		27日	
	30日		28日	
		31日	2月	
		3月	1日	
うるう年の3月	1日	1月	31日	以降
	2日		1日	
	3日		2日	
	4日		3日	
	5日		4日	
	6日		5日	
	7日		6日	
	8日		7日	
	9日		8日	
	10日		9日	
	11日		10日	
	12日		11日	
	13日		12日	
	14日		13日	
	15日		14日	
	16日		15日	
	17日		16日	
	18日		17日	
	19日		18日	
	20日		19日	
	21日		20日	
	22日		21日	
	23日		22日	
	24日		23日	
	25日		24日	
	26日		25日	
	27日		26日	
	28日		27日	
	29日		28日	
	30日		29日	
		31日	2月	
		3月	1日	

注1) 前回の入院における退院年が、平成元年(1989)以降の場合のみ対象である。

注2) うるう年は、平成4年(1992)、平成8年(1996)、平成12年(2000)、平成16年(2004)、平成20年(2008)、平成24年(2012)、平成28年(2016)、令和2年(2020)、令和6年(2024)。

外来の種別	一般診療所退院票	一般診療所票
	—	(4)

外来の種別

- 外来の種別について、該当する数字を1つ選び、○で囲みます。

※ 必ずしも、診療報酬請求上の取り扱いとは一致しません。

初診	調査日に初めて診療した場合
	<input type="radio"/> 以前別の傷病等のために受診したことがあるものの、今回の目的では初めてとなる場合も含む <input type="radio"/> 今回と同じ傷病等のために以前受診したことがあるが、前回診療(訪問)月日が令和7年以前の場合も含む
1 通院	患者が来院し、診療を受けた場合
2 往診	患者又は家族等の患者の看護等に当たる者が、電話等で直接往診を求め、医師が往診の必要性を認めた場合に、可及的速やかに患者に赴き診療を行った場合
再来	・調査日に再診した場合
	<input checked="" type="checkbox"/> 以前診察を受けたものの、今回は別の傷病で診療を受けた場合は、初診へ
	<input checked="" type="checkbox"/> 前回診療(訪問)月日が令和7年以前の場合は、初診へ
	・調査日に同一患者が複数回受診したことによって「3」～「6」が重複した場合は、最初に診療したものを記入します。 ・「3」～「6」を選択した場合は、前回診療(訪問)月日を必ず記入します。
3 通院	患者が来院し、診療を受けた場合
4 往診	患者又は家族等の患者の看護等に当たる者が、電話等で直接往診を求め、医師が往診の必要性を認めた場合に、可及的速やかに患者に赴き診療を行った場合
5 訪問診療	在宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師・歯科医師が訪問して診療を行う場合
6 医師以外の訪問	在宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師・歯科医師以外の者が訪問して実施される場合

4

前回診療月日又は前回訪問月日

- 外来の種別で再来の「3」～「6」を選択した場合は、前回診療月日又は前回訪問月日を記入します。
 - ※ 退院後、初めて外来で通院した場合は退院日を記入します。
 - ※ 前回診療月日又は前回訪問月日が令和7年以前の場合は初診とし、この欄は空欄として問題ありません。

(外来の種別) 選択肢に迷う例	⇒ 質疑応答 問 16, 19～24 を参照
● 同日に2回受診した場合	⇒ 質疑応答 問 16 へ
● 数回に分けて行う予防接種について、2回目以降の場合	⇒ 質疑応答 問 20 へ
● 検診車は「通院」と「往診」のどちらにあたるか	⇒ 質疑応答 問 21 へ
● 電話再診の場合	⇒ 質疑応答 問 22 へ

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

受療の状況	一般診療所退院票	一般診療所票
	(7)	(5)

- 受療の状況について、該当する数字を1つ選び、○で囲みます。

1 傷病の診断・治療	特定の傷病の診断や治療を目的とした受療の場合に選択 ⇒ 「(1)主傷病名」*及び「(2)副傷病名」の記入に進む	
	<input type="radio"/>	介護家族支援短期入院(レスパイト入院)を含む。
2 正常分娩 (単胎自然分娩)	・産婦に対して該当する場合に選択 ・退院患者 … 分娩のために入院し、正常分娩であった場合に選択 ・入院患者・外来患者 … 調査日に正常分娩した場合に選択	
	<input checked="" type="radio"/>	異常及び合併症があり、その診療や処置を行った場合。 ⇒ 「1 傷病の診断・治療」を選択 <例> 前駆陣痛、早産、多胎、骨盤位、会陰裂傷、帝王切開等
3 正常妊娠・ 産じよくの管理	妊婦の正常妊娠の管理、産褥婦の分娩後のケア及び検査をした場合に選択。	
	<input checked="" type="radio"/>	妊婦健診、自費での産後ケア入院を含む。 異常及び合併症があり、その診療を行った場合。 ⇒ 「1 傷病の診断・治療」を選択 <例> 多胎妊娠等、分娩後貧血、流産、妊娠中の気管支炎、妊娠糖尿病、 妊娠高血圧症候群、人工妊娠中絶 等
4 健康者に対する検査、健康診断(査)・管理	健康な者に対する一般的検査・健康診断(査)及び管理のために受診した患者が該当。 <例> 特定健診、特定保健指導、人間ドック、ツベルクリン反応検査、 妊娠の確定していない妊娠検査等	
	<input checked="" type="radio"/>	全身倦怠、悪心等、傷病の疑い及び症状があるために検査をした場合。 ⇒ 「1 傷病の診断・治療」を選択
5 予防接種	予防接種のみを目的とした外来患者の場合に選択。 <例> BCG、麻疹ワクチン、インフルエンザワクチン、新型コロナウイルスワクチン等	
	<input checked="" type="radio"/>	予防接種と同時に他の選択肢に該当する受診(診察や健康診断等)があった場合は、他の選択肢を優先します。
6 その他の保健サービス ※ 一般診療所退院票の 選択肢番号は「5」	上記「1」～「5」(退院票は「1」～「4」)以外の患者が該当。 <例> 血液及び組織提供者(ドナー)、美容形成、抜釘手術、リハビリ、 アフターケア(義眼・義手・義足、手術治癒後の形成手術) 等	
	<input type="radio"/>	短期入所生活介護又は介護予防短期入所生活介護(ショートステイ)において、 介護のみを行った場合を含む。 注 入院中に医療的な処置を行った場合 ⇒ 「1 傷病の診断・治療」を選択

(受療の状況) 選択肢に迷う例

⇒ 質疑応答 問 16, 26~49 を参照

● (外来分) 同日に2回受診した場合	⇒ 質疑応答 問 16 へ
● 上記の選択肢において、2つ以上該当する場合(診察と予防接種を同日に行った場合等)	⇒ 質疑応答 問 27 へ
● (外来分) 事前に行われた健康診断の結果を聞きに外来を受診した場合	⇒ 質疑応答 問 28 へ
● 会陰部切開を伴う普通分娩の場合	⇒ 質疑応答 問 36 へ
● 複数の傷病名がある場合、何を基準にして主たる傷病名を選ぶべきか	⇒ 質疑応答 問 43 へ
● 当院での入院の主な目的とは別の傷病で転院または死亡退院となった場合	⇒ 質疑応答 問 45, 46 へ

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

受療の状況-主傷病名

一般診療所退院票

一般診療所票

(7)の(1)

(5)の(1)

⇒ 同封資料の『患者調査における「主傷病名」「副傷病名」の記入について』も参照ください。

- 受療の状況が「1 傷病の診断・治療」の場合は、調査日現在の主傷病名を1つ記入します。
- 本調査の精度を左右する重要な項目ですので(主傷病名は、厚生労働省においてICD準拠の統計基準に基づいて詳細に分類し集計します)、次の事項に注意して記入願います。

複数の傷病を有する患者については、以下の点を踏まえ、できるだけ主治医の確認をとった上で、記入してください。

・傷病が複数ある場合は、医師の判断で最も重いものを1つ記入します。



退院患者	退院時に入院の理由となっていた傷病名を1つ記入
入院患者	調査日現在、入院の理由となっている傷病名を1つ記入
外来患者	調査日現在、主として治療又は検査をしている傷病名を1つ記入

可能な限り詳細に記入してください。

発病の型	例:急性・慢性の別、原発性・続発性の別 等
病 因	例:病原体名 等
部 位	例:胃噴門部 等
性 状	例:病理組織型 等
重症度	例:ステージ1 等



- 傷病名ではなく症状を記入することは、控えてください。
- 特殊な記号、符号、略号(LC, DM, MS, AMI, AAA等)は、可能な限り使用しないでください。
- 「主傷病名」によくある不適切な例は、次ページを参照ください。
- 歯科の主傷病名の記入にあたっては、30ページを参照ください。

判読が困難であったり、他の傷病名と誤読することのないよう、日本語で丁寧に記入してください。



誤読されやすい例	腎 ⇄ 胃 肝 ⇄ 肺 腫 ⇄ 臍 腹 ⇄ 腸 瘤 ⇄ 癌
----------	-------------------------------

＜ 「主傷病名」によくある不適切な記入例 ＞

※ あくまで一例であり、本表に記載された傷病以外の主傷病名についても、前ページの記入時の注意点を踏まえて記入いただくをお願いします。

× 不適切な例		○ 正しい例	注意！ 記入の際は、以下の点を明記する
胃炎	→	急性 出血性 胃炎 ① ②	① 発病の型 急性、慢性 等 ② 性状、病因 出血性、アルコール性、萎縮性 等
肝炎	→	C型 慢性 肝炎 ① ②	① 病因の型 アルコール性、ウイルス性(A型、B型、C型) 等 ② 発病の型 急性、慢性 等
膵炎	→	アルコール性 急性 膵炎 ① ②	① 病因の型 アルコール性、胆石性、特発性、薬物性 等 ② 発病の型 急性、慢性 等
癌・腫瘍	→	転移性 肝癌 ① ②	① 発病の型 原発性、転移性、続発性 等 ② 部位 胃体部、十二指腸 等 ③ 性状 悪性新生物、上皮内癌、良性新生物、未分化大細胞型、ALK 陰性 等
		胃噴門部の悪性新生物 ② ③	
		未分化大細胞型リンパ腫, ALK 陰性 ③ ③	
糖尿病	→	1型 糖尿病性 網膜症 ① ②	① 病因の型 1型、2型、妊娠 等 を明記 ② 合併症 昏睡、腎症、網膜症を伴うもの 等
認知症	→	皮質下血管性 認知症	皮質下血管性、多発梗塞性、アルツハイマー型、パーキンソン病 等
高血圧症	→	本態性 高血圧	本態性、二次性、腎血管性、妊娠 等
心筋梗塞	→	急性 下壁 心筋梗塞 ① ②	① 発病の型 急性、再発性、陳旧性 等 ② 部位 下壁、前壁、後壁 等
脳梗塞	→	中大脳動脈 塞栓性 脳梗塞 ① ②	① 部位 中大脳動脈、前大脳動脈、脳底動脈、椎骨動脈 等 ② 性状 塞栓性、アテローム血栓性、心原性 等
肺炎	→	マイコプラズマ 肺炎	細菌性(マイコプラズマ、緑膿菌、連鎖球菌等)、ウイルス性(RS、インフルエンザ) 等
胃潰瘍	→	急性 穿孔性 胃潰瘍 ① ②	① 発病の型 急性、慢性 等 ② 性状 穿孔性、出血性 等
ヘルニア	→	両側性 鼠径ヘルニア 嵌頓 ① ② ③	① 部位 両側性、一側性 等 ② 部位 鼠径、臍、横隔膜 等 ③ 性状 嵌頓性、閉塞性、壊疽を伴うもの 等
腎炎	→	急性 びまん性膜性 糸球体 腎炎 ① ② ③	① 発病の型 急性、慢性、急速進行性 等 ② 形態学的変化 微小変化群、巣状、びまん性膜性 等 ③ 部位 糸球体、尿細管間質性 等
腎臓病	→	慢性 腎臓病, ステージ4 ① ②	① 発病の型 慢性、末期 等 ② 重症度 ステージ1、ステージ2 等
骨折	→	(外傷の場合) 上腕骨近位端 骨折	部位 側頭骨、腰椎、大腿骨頸部 等 ※ 外傷以外の原因による場合は、その原因も明記(例:「骨粗しょう症による骨折」等)
貧血	→	後天性 溶血性 貧血 ① ②	① 発病の型 遺伝性、後天性 等 ② 病因の型 自己免疫性、溶血性、鉄欠乏性 等

＜ 歯科の主傷病名 ＞

- 歯科の主傷病名は以下のとおりに記入するか、
あてはまらない場合は、できるだけ詳細に傷病名を記入します。

傷病名	傷病名
う蝕症 ※できるだけ詳細に記入します。 ＜例＞う蝕第1度、う蝕第2度、象牙質う蝕、 エナメル質初期う蝕、セメント質う蝕、 露髄のあるう蝕 等	
歯髄炎、歯髄壊疽、歯髄壊死	
歯根膜炎	
歯槽膿瘍、歯根嚢胞	
歯肉炎	
慢性歯周炎	
歯肉膿瘍、その他の歯周疾患	
智歯周囲炎	
その他の歯及び歯の支持組織の障害	上記(う蝕～智歯周囲炎)以外の歯の疾患をいいます。 ＜例＞ 歯の発育及び萌出異常、不正咬合等
じょく瘡性潰瘍、口内炎 等	
その他の顎及び口腔の疾患	顎、唾液腺、口腔内、舌、口唇等の疾患をいいます。 ＜例＞ 顎嚢胞、顎骨髄炎、唾液腺炎、舌炎等 ＜除外＞じょく瘡性潰瘍(傷病名を記入します。)
以下の場合、その理由となった傷病名を記入します。 抜歯 歯の補てつ(冠) 歯の欠損補てつ(ブリッジ、有床義歯、インプラント) 歯科矯正	

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

受療の状況-肝疾患の状況

一般診療所退院票

一般診療所票

—

(5)

- 主傷病名が、肝疾患（慢性肝炎、肝硬変、肝及び肝内胆管の悪性新生物 等）の場合は、肝疾患の状況について該当する数字を1つ選び○で囲みます。

※ 肝疾患がアルコールを原因とする場合は回答不要ですが、その場合は、主傷病名にアルコール性であることを明記します。（例：「アルコール性肝硬変」、「アルコール性肝炎」等）

※ 主傷病名が肝疾患でない場合は回答不要

<p>1 B型肝炎ウイルス (HBV)陽性</p>	<p>血液検査で、HBs 抗原または HBV DNA が陽性的場合</p> <p><input type="radio"/> 過去の血液検査の結果が明らかでなくても、肝疾患の原因がB型肝炎ウイルスであるという判断のもと、治療中もしくは治療が行われた場合を含む</p>
<p>2 C型肝炎ウイルス (HCV)陽性</p>	<p>血液検査で、HCV 抗体または HCV RNA が陽性的場合</p> <p><input type="radio"/> 過去の血液検査の結果が明らかでなくても、肝疾患の原因がC型肝炎ウイルスであるという判断のもと、治療中もしくは治療が行われた場合を含む</p>
<p>3 B型肝炎ウイルス (HBV)及びC型肝炎ウイルス(HCV)ともに陽性</p>	<p>血液検査で、以下2点の両方が陽性だったことがあり、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスの両方に対する治療中もしくは治療が行われた場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HBs 抗原または HBV DNA ・HCV 抗体または HCV RNA <p><input type="radio"/> それぞれのウイルスが陽性であった時期が異なっている場合を含む</p>
<p>4 B型肝炎ウイルス (HBV)及びC型肝炎ウイルス(HCV)ともに陰性</p>	<p>血液検査で、以下2点が<u>いずれも陰性</u>で、肝疾患の原因は、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスのいずれでもない判断される場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HBs 抗原または HBV DNA ・HCV 抗体または HCV RNA <p><input type="radio"/> 未検査または検査待ちで肝疾患の状況が不明の場合はここに該当します</p>

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

受療の状況-外傷の原因

一般診療所退院票

一般診療所票

(7)

(5)

- 主傷病名が、外傷や中毒の場合は、外傷の原因について該当する数字を1つ選び○で囲みます。

※ 主傷病名が外傷や中毒でない場合は回答不要

※ 外傷や中毒の主傷病の例は以下のとおり

- 骨折、打撲、捻挫、挫傷、創傷、熱傷、外傷性〇〇(外傷性くも膜下出血 等) 等の外傷
ただし、外傷性でない原因によるもの(骨粗しょう症による骨折等)は、「外傷の原因」への回答不要。
- 薬物、気体、有毒動物や食物、殺虫剤や除草剤 等の中毒
ただし、飲酒によるアルコール中毒は、「外傷の原因」への回答不要。
- 異物の誤嚥、溺水、日射病 等、下記の表にある原因による傷病・症状

不慮の事故	1 自動車交通事故	自動車(自動二輪車・原動機付自転車を含む)による衝突、転落または自動車内の火災、中毒等の事故
	2 自転車交通事故	自転車による衝突、転倒または転落等の事故
	3 その他の交通事故	列車、電車、船舶、航空機、ケーブルカー、工業用車輛等による衝突、それらからの転落または車内、船内での転倒等の事故
	4 スポーツ中の事故	スポーツまたはレクリエーション中の事故 (準備中や後片付け中も含む)
	5 転倒・転落	同一平面上の転倒、高所からの転落、衝突による転倒事故 <例> スリップ、つまずき、転落(階段、木、溝、川、マンホール等) 等 <除外> 自転車での転倒・転落は「2 自転車交通事故」
	6 1～5 以外の原因による不慮の事故	「1」～「5」以外の原因による不慮の事故の場合 <溺水> 浴槽内、水泳プール内、自然の水域内(川・湖・海)、貯水池、防火用水槽等、水中での溺水及び転落 等 <窒息> ベッド内でのシーツ・枕カバー・枕による窒息、落盤、落下する土砂及びその他の物体による窒息、食物による窒息、冷蔵庫またはその他の空気の限られた空間への不慮の閉じ込めによる窒息やビニール袋による窒息 等 <煙、火、火災> 落雷による火災、ボイラー・高圧ガスタンクの爆発、花火、ストーブ、いろり、建物・森林火災、ガソリン・灯油等の発火 等 <有害物質> 一酸化炭素、自動車排気ガス、農薬・家庭用ガス、まむし咬傷、蜂刺傷、クラゲ刺傷、毒きのこ 等 <その他> 医薬品の中毒、診療上の事故、気圧・天候・自然災害事故、動物による咬傷・踏まれ・蹴られ、機械・刃器によるもの、異物、落下物、電気、放射線、戦争行為 等
故意又は不明	7 自傷	自殺目的または発作的自損による場合
	8 他傷	他害目的のはっきりしている場合
	9 不明	原因不明の場合

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

受療の状況 - 副傷病名	一般診療所退院票	一般診療所票
	(7)の(2)	(5)の(2)

- 受療の状況が「1 傷病の診断・治療」の場合は、できるだけ主治医の確認をとった上で、主傷病名以外に治療や検査を受けていた傷病について該当する数字をすべて選び、○で囲みます。

※ 過去に罹患し既に治癒した、あるいは受療の必要のない傷病については、回答から除外してください。
 ※ どこまでを副傷病名として回答すべきかの判断基準

一般診療所退院票 … 9月中の退院患者	入院中に主傷病以外に治療や検査を受けていた傷病名をすべて選択
一般診療所票(入院分) … 10月の調査日の入院患者	調査日に貴施設で治療や検査を受けていない傷病も含め、主傷病以外に罹患している傷病名を、できるだけすべて選択
一般診療所票(外来分) … 10月の調査日の外来患者	

単一の傷病を有する患者の場合 ⇒ 「01 副傷病なし」のみを○で囲みます。

01 副傷病なし	主傷病名以外の傷病がない場合
----------	----------------

複数の傷病を有する患者の場合 ⇒ 主傷病名以外の傷病について、「02」～「16」から該当する数字をすべて選び○で囲みます。

02 糖尿病(合併症を伴わないもの)		
03 糖尿病(性)腎症		
04 糖尿病(性)眼合併症		
05 糖尿病(性)神経障害		
06 03～05以外の合併症を伴う糖尿病	昏睡、ケトアシドーシス、その他の明示された合併症、詳細不明の合併症を伴う糖尿病	
07 肥満(症)		「07」～「09」は、 薬剤の使用が原因であるものを除く
08 脂質異常症(高コレステロール血症等)	低 HDL コレステロール血症を含む	
09 高血圧(症)		
10 虚血性心疾患		
11 脳卒中	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血を含む ※ 一過性脳虚血発作(TIA)や、外傷性のものを除く	
12 閉塞性末梢動脈疾患	末梢動脈の動脈硬化による血流の不全をいう ※ 冠動脈、肺動脈、脳動脈、腸間膜動脈、腎動脈のものを除く	
13 大動脈疾患(大動脈解離、大動脈瘤)		
14 慢性腎臓病(慢性腎不全等)		
15 精神疾患	以下の傷病を含む ・ アルツハイマー病 ・ 認知症(血管性及び詳細不明の認知症) ・ アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害 ・ その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害 ・ 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 ・ 気分[感情]障害(躁うつ病を含む) ・ 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 ・ てんかん ・ その他の精神及び行動の障害 ※ アルツハイマー病及びてんかん以外の神経系の疾患、知的障害<精神遅滞>は含まない	
16 その他の疾患	上記の「01」～「15」以外の場合	

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

診療費等支払方法

一般診療所退院票	一般診療所票
(8)	(6)

- 一般診療所退院票 …… 退院時の支払方法を回答します。
- 一般診療所票(入院分)・一般診療所票(外来分) …… 10月の調査日当日の支払方法を回答します。

※記入例について ⇒ 36,37 ページを参照してください。

(診療費等支払方法) 選択肢に迷う例

⇒ 質疑応答 問 16,28,50~61 を参照

● 同日に2回受診した場合	⇒ 質疑応答 問 16 へ
● 事前に行われた健康診断の結果を聞きに外来を受診した場合	⇒ 質疑応答 問 28 へ
● 入院中に支払方法に変更があった場合	⇒ 質疑応答 問 50 へ
● 当日の診療について一旦自費等で支払っているが、後に返金の上、別の支払方法への変更となった場合	⇒ 質疑応答 問 54 へ
● 自動車保険の任意保険での支払いの場合	⇒ 質疑応答 問 55 へ
● 治験の場合	⇒ 質疑応答 問 58 へ
● 特定疾病療養費や重度障害医療費助成の場合	⇒ 質疑応答 問 59 へ
● 窓口で患者が支払うお金が0円の場合	⇒ 質疑応答 問 61 へ

負担区分

- 今回の診療に関する支払方法について、該当する数字すべてを○で囲みます(複数回答可)
- 「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合は、「Ⅰ(医療保険等)」及び「Ⅱ(公費負担医療)」から該当するものを選択してください。

1 自費診療 (保険外併用療養費を含む)	<input type="radio"/>	診療費、介護サービス費、健康診断(査)、予防接種等のすべてまたは一部を自費で支払う場合を含む。
	<input type="radio"/>	保険外併用療養費(※)に係る自己負担分を支払う場合を含む。 特別の病室の提供(差額ベット)、前歯部の鑲造歯冠修復、予約に基づく診療、診断書の発行等
	<input type="radio"/>	各種健康保険より支払われる出産一時金を含む。
	<input checked="" type="radio"/>	医療保険等により支払った際の自己負担(3割等)は含まない。
	<input checked="" type="radio"/>	入院の際にかかる病衣レンタル代、テレビカード代、おむつ代は診療費に当たらないため、含まない。
2 医療保険等、 公費負担医療	診療費を医療保険等または公費負担医療で支払う場合	
3 介護保険 (介護扶助を含む)	介護サービス費を介護保険または生活保護法による介護扶助で支払う場合	

「Ⅰ(医療保険等)」、「Ⅱ(公費負担医療)」へ進む(次ページ参照)

「Ⅰ(医療保険等)」、「Ⅱ(公費負担医療)」

※「負担区分」で「2 医療保険等、公費負担医療」を選択したときのみ回答！

- IとIIは同時に選択可能です。両方に該当する場合は、それぞれ該当する数字を○で囲みます。

※ 業務災害として災害補償保険を申請中等のため一旦全額自費で支払っていたが、調査日時点で別の支払方法の適用が決定しているものについては、決定している支払方法を回答してください。

(保険証を忘れた場合や、「05 労働災害・公務災害」「06 自動車損害賠償保障法」等で見られる例です。)

「Ⅰ(医療保険等)」

- I(医療保険等)の「01」～「07」のうち、該当する数字を1つ○で囲みます。

※ II(公費負担医療)のみ該当ありで、I(医療保険等)は該当なしの場合は、回答不要(「07 その他」にも○は不要)。

01	健康保険・各種共済組合(本人)	全国健康保険協会管掌健康保険・健康保険組合・各種共済組合の被保険者または被扶養者として支払われるもの
02	健康保険・各種共済組合(家族)	
03	国民健康保険	国民健康保険の被保険者として支払われるもの
		<input type="checkbox"/> 国民健康保険組合を含む
04	高齢者医療(後期高齢者医療制度)	高齢者の医療の確保に関する法律に基づく健康診査及び医療の対象とされている
05	労働災害・公務災害	労働者災害補償保険法・国家公務員災害補償法等の法令に基づいて業務上、公務上の災害に対して療養補償費が支給されるもの(療養を給付される場合を含む。)
06	自動車損害賠償保障法	自動車の運行によって傷害を受けた場合で、自動車損害賠償保障法に基づく自動車損害賠償責任保険の保険金により、当該傷害の治療費が支払われるもの
07	その他	I(医療保険等)の「01」～「06」、IIの「08」～「11」のいずれにも該当しないもの(船員保険、自衛官本人等)

「Ⅱ(公費負担医療)」

- II(公費負担医療)の「08」～「11」のうち、該当する数字すべてを○で囲みます。

※ I(医療保険等)のみ該当ありで、II(公費負担医療)の該当がなしの場合は、回答不要。

08	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律が適用されているもの
09	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(育成医療、更生医療、精神通院医療*)	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第58条が適用されているもの
10	生活保護法(医療扶助)	生活保護法第11条第1項第4号による医療扶助を受けたもの
11	その他の公費負担によるもの	<ul style="list-style-type: none"> ● その他の法律(戦傷病者特別援護法、難病の患者に対する医療等に関する法律等)による公費負担医療 ● 市区町村や都道府県で行っている公費負担医療によるもの(例:乳幼児医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成等)

※ 精神通院医療は、一般診療所票のみ。

< 記入例(診療費等支払方法) >

例1 本人の加入する社会保険の保険証で保険診療を受けた患者の場合

(6) 診療費等 支払方法	※1~3のうち、該当するもの すべてに○をつけてください。 1 自費診療 (保険外併用 療養費を含む) 2 医療保険等、 公費負担医療 3 介護保険 (介護扶助を含む) ※介護保険サービス 利用者で、医療保険等と 公費負担医療を併用 している場合は、 それらの両方について 選択してください。	※左列の「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合、 「I 医療保険等」及び「II 公費負担医療」の01~11に 該当するものすべてに○をつけてください。											
		<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">I 医療 保険 等</td> <td>01 健康保険・各種共済組合(本人)</td> </tr> <tr> <td>02 健康保険・各種共済組合(家族)</td> </tr> <tr> <td>03 国民健康保険</td> </tr> <tr> <td>04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)</td> </tr> <tr> <td>05 労働災害・公務災害</td> </tr> <tr> <td>06 自動車損害賠償保障法</td> </tr> <tr> <td>07 その他</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">II 公費 負担 医療</td> <td>08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律</td> </tr> <tr> <td>09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)</td> </tr> <tr> <td>10 生活保護法(医療扶助)</td> </tr> <tr> <td>11 その他の公費負担によるもの</td> </tr> </table>	I 医療 保険 等	01 健康保険・各種共済組合(本人)	02 健康保険・各種共済組合(家族)	03 国民健康保険	04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)	05 労働災害・公務災害	06 自動車損害賠償保障法	07 その他	II 公費 負担 医療	08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)
I 医療 保険 等	01 健康保険・各種共済組合(本人)												
	02 健康保険・各種共済組合(家族)												
	03 国民健康保険												
	04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)												
	05 労働災害・公務災害												
	06 自動車損害賠償保障法												
	07 その他												
II 公費 負担 医療	08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律												
	09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)												
	10 生活保護法(医療扶助)												
	11 その他の公費負担によるもの												

例2 国民健康保険 + 自治体による心身障害者医療費助成制度の受給者証で保険診療を受けた患者の場合

例3 国民健康保険 + 高齢受給者制度(前期高齢者)の受給者証で保険診療を受けた患者の場合

(6) 診療費等 支払方法	※1~3のうち、該当するもの すべてに○をつけてください。 1 自費診療 (保険外併用 療養費を含む) 2 医療保険等、 公費負担医療 3 介護保険 (介護扶助を含む) ※介護保険サービス 利用者で、医療保険等と 公費負担医療を併用 している場合は、 それらの両方について 選択してください。	※左列の「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合、 「I 医療保険等」及び「II 公費負担医療」の01~11に 該当するものすべてに○をつけてください。											
		<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">I 医療 保険 等</td> <td>01 健康保険・各種共済組合(本人)</td> </tr> <tr> <td>02 健康保険・各種共済組合(家族)</td> </tr> <tr> <td>03 国民健康保険</td> </tr> <tr> <td>04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)</td> </tr> <tr> <td>05 労働災害・公務災害</td> </tr> <tr> <td>06 自動車損害賠償保障法</td> </tr> <tr> <td>07 その他</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">II 公費 負担 医療</td> <td>08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律</td> </tr> <tr> <td>09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)</td> </tr> <tr> <td>10 生活保護法(医療扶助)</td> </tr> <tr> <td>11 その他の公費負担によるもの</td> </tr> </table>	I 医療 保険 等	01 健康保険・各種共済組合(本人)	02 健康保険・各種共済組合(家族)	03 国民健康保険	04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)	05 労働災害・公務災害	06 自動車損害賠償保障法	07 その他	II 公費 負担 医療	08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)
I 医療 保険 等	01 健康保険・各種共済組合(本人)												
	02 健康保険・各種共済組合(家族)												
	03 国民健康保険												
	04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)												
	05 労働災害・公務災害												
	06 自動車損害賠償保障法												
	07 その他												
II 公費 負担 医療	08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律												
	09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)												
	10 生活保護法(医療扶助)												
	11 その他の公費負担によるもの												

例4 後期高齢者医療制度の適用を受ける患者が、保険での治療に加えて保険適用外の材料を使用した場合

(6) 診療費等 支払方法	※1~3のうち、該当するもの すべてに○をつけてください。 1 自費診療 (保険外併用 療養費を含む) 2 医療保険等、 公費負担医療 3 介護保険 (介護扶助を含む) ※介護保険サービス 利用者で、医療保険等と 公費負担医療を併用 している場合は、 それらの両方について 選択してください。	※左列の「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合、 「I 医療保険等」及び「II 公費負担医療」の01~11に 該当するものすべてに○をつけてください。											
		<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">I 医療 保険 等</td> <td>01 健康保険・各種共済組合(本人)</td> </tr> <tr> <td>02 健康保険・各種共済組合(家族)</td> </tr> <tr> <td>03 国民健康保険</td> </tr> <tr> <td>04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)</td> </tr> <tr> <td>05 労働災害・公務災害</td> </tr> <tr> <td>06 自動車損害賠償保障法</td> </tr> <tr> <td>07 その他</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">II 公費 負担 医療</td> <td>08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律</td> </tr> <tr> <td>09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)</td> </tr> <tr> <td>10 生活保護法(医療扶助)</td> </tr> <tr> <td>11 その他の公費負担によるもの</td> </tr> </table>	I 医療 保険 等	01 健康保険・各種共済組合(本人)	02 健康保険・各種共済組合(家族)	03 国民健康保険	04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)	05 労働災害・公務災害	06 自動車損害賠償保障法	07 その他	II 公費 負担 医療	08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)
I 医療 保険 等	01 健康保険・各種共済組合(本人)												
	02 健康保険・各種共済組合(家族)												
	03 国民健康保険												
	04 高齢者医療(後期高齢者医療制度)												
	05 労働災害・公務災害												
	06 自動車損害賠償保障法												
	07 その他												
II 公費 負担 医療	08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律												
	09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (育成医療、更生医療、精神通院医療)												
	10 生活保護法(医療扶助)												
	11 その他の公費負担によるもの												

< 記入例(診療費等支払方法)の続き >

例5 保険診療(社保家族+自治体による乳幼児医療費助成)に加えて、診断書の発行(自費)を行った場合

(6) 診療費等支払方法 ※1~3のうち、該当するものすべてに○をつけてください。 ① 自費診療 (保険外併用療養費を含む) ② 医療保険等、公費負担医療 IとIIへ ③ 介護保険 (介護扶助を含む) ※介護保険サービス利用者で、医療保険等と公費負担医療を併用している場合は、それらの両方について選択してください。	※左列の「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合、「I 医療保険等」及び「II 公費負担医療」の01~11に該当するものすべてに○をつけてください。	I 医療保険等 01 健康保険・各種共済組合(本人) ② 健康保険・各種共済組合(家族) 03 国民健康保険 04 高齢者医療(後期高齢者医療制度) 05 労働災害・公務災害 06 自動車損害賠償保障法 07 その他
		II 公費負担医療 08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(育成医療、更生医療、精神通院医療) 10 生活保護法(医療扶助) ⑪ その他の公費負担によるもの

例6 予防接種において、自治体からの補助で費用がまかなわれ、患者の窓口負担がない場合

(6) 診療費等支払方法 ※1~3のうち、該当するものすべてに○をつけてください。 ① 自費診療 (保険外併用療養費を含む) ② 医療保険等、公費負担医療 IとIIへ ③ 介護保険 (介護扶助を含む) ※介護保険サービス利用者で、医療保険等と公費負担医療を併用している場合は、それらの両方について選択してください。	※左列の「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合、「I 医療保険等」及び「II 公費負担医療」の01~11に該当するものすべてに○をつけてください。	I 医療保険等 01 健康保険・各種共済組合(本人) 02 健康保険・各種共済組合(家族) 03 国民健康保険 04 高齢者医療(後期高齢者医療制度) 05 労働災害・公務災害 06 自動車損害賠償保障法 07 その他
		II 公費負担医療 08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(育成医療、更生医療、精神通院医療) 10 生活保護法(医療扶助) ⑪ その他の公費負担によるもの

例7 透析を行っており、本人が加入している健康保険(社保)において特定疾病療養費制度の適用を受ける患者の場合

⇒ 参考: 質疑応答 問59

(6) 診療費等支払方法 ※1~3のうち、該当するものすべてに○をつけてください。 ① 自費診療 (保険外併用療養費を含む) ② 医療保険等、公費負担医療 IとIIへ ③ 介護保険 (介護扶助を含む) ※介護保険サービス利用者で、医療保険等と公費負担医療を併用している場合は、それらの両方について選択してください。	※左列の「2 医療保険等、公費負担医療」を選択した場合、「I 医療保険等」及び「II 公費負担医療」の01~11に該当するものすべてに○をつけてください。	I 医療保険等 ① 健康保険・各種共済組合(本人) 02 健康保険・各種共済組合(家族) 03 国民健康保険 04 高齢者医療(後期高齢者医療制度) 05 労働災害・公務災害 06 自動車損害賠償保障法 07 その他
		II 公費負担医療 08 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 09 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(育成医療、更生医療、精神通院医療) 10 生活保護法(医療扶助) 11 その他の公費負担によるもの

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

病床の種別	一般診療所退院票	一般診療所票
	(9)	(9) ※入院のみ

- 調査日時点で入院していた病床について、該当する数字を1つ選び○で囲みます。

1 療養病床	医療法第7条第2項第4号に規定する病床で、医療保険が適用される病床
2 一般病床	医療法第7条第2項第5号に規定する病床

(病床の種別) 選択肢に迷う例

- 退院票において9月中に転床があった場合、入院票において調査日当日に転床 ⇒ 質疑応答 問 62 へした場合

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

紹介の状況	一般診療所退院票	一般診療所票
	—	(7)

- 入院(または外来)の際にどこから紹介されたのか、該当する数字を1つ選び○で囲みます。
- 入院の場合は今回の入院時の紹介の状況を、外来の場合は初診時の紹介の状況を記入します。

1 病院から	病院の医師・歯科医師の紹介による場合
2 一般診療所から	一般診療所の医師・歯科医師の紹介による場合
3 歯科診療所から	歯科診療所の歯科医師の紹介による場合
4 介護医療院から	介護医療院の医師・歯科医師の紹介による場合
5 介護老人保健施設から	介護老人保健施設の医師・歯科医師の紹介による場合
6 介護老人福祉施設から	介護老人福祉施設の医師・歯科医師の紹介による場合
7 その他から	上記「1」～「6」以外の紹介による場合 (医師・歯科医師以外の紹介及び院内紹介はここに含む)
8 紹介なし	紹介がない、または不明の場合

(紹介の状況) 選択肢に迷う例

⇒ 質疑応答 問 63～66 を参照

- 「紹介の状況」は、いつの時点の状況を回答すべきか ⇒ 質疑応答 問 63 へ

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

来院時の状況

一般診療所退院票

一般診療所票

(11)

(8)

来院時の状況

- 来院時（一般診療所退院票と一般診療所票（入院分）の場合は入院時、一般診療所票（外来分）の場合は初診時）の状況について、該当する数字を1つ選び○で囲みます。

救急の受診	1 通常の受診	通常の受診であった場合 来院時の状況が不明の場合を含む 自施設で生まれた新生児、健康診断や予防接種のために来院した場合を含む
	2 救急車により搬送	救急車で搬送され、受診した場合 (ドクターカー、ドクターヘリでの搬送も含む)
	3 徒歩や自家用車等による救急の受診	徒歩や自家用車等で来院し、救急を受診した場合 救急外来であるかどうかや診療時間の内外によらず、診療時間内でも、待合室で待てないような緊急の状況により順番を変更して対応した場合を含む

診療時間内外の受診

- 来院時の状況で救急の受診（「2」または「3」）を選択した場合は、その救急で受診した診療時間について、該当する数字を1つ選び○で囲みます。

1 診療時間内の受診	診療所で表示する診療時間内に受診した場合
2 診療時間外の受診	診療所で表示する診療時間外に受診した場合

（来院時の状況）選択肢に迷う例

- 「来院時の状況」は、いつの時点の状況を回答すべきか ⇒ 質疑応答 問 70 へ

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

入院の状況	一般診療所退院票	一般診療所票
	—	(10) ※入院のみ

● 調査日現在の入院患者の状況について、該当する数字を1つ選び○で囲みます。

1 生命の危険は少ないが入院治療を要する	生命の危険は少ないが入院治療（検査、処置、手術等）を要する場合
2 生命の危険がある	容態の急変が予想できる等差し迫った生命の危険がある重篤な場合
3 受け入れ条件を整えば退院可能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退院は決まっていないが退院可能な状態にある場合 ・ 入院治療の必要がなくなっている状態であるが、何らかの事情により退院できない場合（条件が整う場合の例：他の医療施設への入院が決まる、入所施設への入所が決まる、家庭において在宅医療の体制が整う場合 等） <p>注 本選択肢は、退院が決まらない患者に対する選択肢であるため、すでに退院が決まっている患者については、本選択肢以外から選択します。</p>
4 検査入院	検査のために入院した場合 (健康な者に対する一般的検査のための入院患者も含む)
5 その他	上記「1」～「4」以外、または不明の場合 (調査日の死亡退院を含む)

(入院の状況) 選択肢に迷う例

⇒ 質疑応答 問 71～75 を参照

● 調査日に死亡退院した場合の回答方法	⇒ 質疑応答 問 74 へ
● すでに退院が決まっている患者の回答方法	⇒ 質疑応答 問 75 へ

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

入院前の場所

一般診療所退院票

一般診療所票

(10)

—

- 入院前の居場所と受療形態について、該当する数字を1つ選び○で囲みます。

家庭	1 当院に通院	家庭から通院していた場合
	2 他の病院・診療所に通院	家庭から他の病院または診療所に通院していた場合
	3 在宅医療(訪問診療・訪問看護等)	家庭で往診・訪問診療・訪問看護を受けていた場合
	4 その他	・上記「1」～「3」以外の場合 <input type="radio"/> 入院前の居場所が家庭であって、通院していなかった者、往診・訪問診療・訪問看護を受けていなかった者または不明の者を含む

他の病院・診療所に入院	5 地域医療支援病院・特定機能病院	他の地域医療支援病院、特定機能病院に入院していた場合
	6 その他の病院	地域医療支援病院、特定機能病院以外の他の病院に入院していた場合
	7 診療所	他の診療所に入院していた場合
8 介護医療院に入所	介護医療院に入所していた場合	
9 介護老人保健施設に入所	介護老人保健施設に入所していた場合	
10 介護老人福祉施設に入所	介護老人福祉施設に入所していた場合	
11 社会福祉施設に入所	社会福祉施設(障害福祉施設・児童福祉施設等)に入所していた場合	
12 その他(新生児・不明等)	・上記「1」～「11」以外の場合	
	・診療所内で出生した新生児 <input type="checkbox"/> 他の病院や診療所に入院していた等、入院前の居場所のある新生児を除く	

< 参考 施設の種類と対応する選択肢 >

施設の種類	入院前の場所の選択肢
老人短期入所施設	1～4 家庭(いずれかに○)
老人デイサービスセンター	
老人福祉センター	
小規模多機能型居宅介護	
サービス付き高齢者向け住宅	
介護医療院	8 介護医療院に入所
介護老人保健施設	9 介護老人保健施設に入所
特別養護老人ホーム	10 介護老人福祉施設に入所
養護老人ホーム	11 社会福祉施設に入所
軽費老人ホーム(A型・B型)	
軽費老人ホーム(ケアハウス)	
有料老人ホーム	
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	

(入院前の場所) 選択肢に迷う例

⇒ 質疑応答 問 67～69 を参照

- 家庭から外来を初めて受診し、そのまま入院となった場合は「1 当院に通院」にあたるか ⇒ 質疑応答 問 67 へ
- 「入院前の場所」「退院後の行き先」は、主傷病についてのみ回答するのか。また、主傷病かどうかによらず回答した場合、複数の選択肢に該当するのだが、どれを優先すればよいか。 ⇒ 質疑応答 問 68 へ
- 他院からの紹介状を持参した上で入院となった場合はすべて「2 他の病院・診療所に通院」にあたるのか ⇒ 質疑応答 問 69 へ

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

手術の有無

一般診療所退院票

一般診療所票

(12)

—

手術の有無

- 入院中における主傷病名に関する手術の有無について、「1 有」または「2 無」のいずれかの数字を○で囲みます。

※ (7)受療の状況が「2 正常分娩(単胎自然分娩)」 「3 正常妊娠・産じょくの管理」の場合は、「2 無」とします。

手術日

- 手術の有無が「1 有」の場合は、手術日を記入します。

※ 入院中に主傷病名に関する手術を複数回行った場合は、
診療報酬の高い手術の手術日とし、診療報酬が同じ場合は先に行った手術の手術日とします。

(手術の有無) 選択肢に迷う例

⇒ 質疑応答 問 76～79 を参照

- | | |
|---|---------------|
| ● 今回の入院において、「受療の状況」で回答した主傷病とその他の傷病それぞれ
1回ずつ手術を行った場合の回答方法 | ⇒ 質疑応答 問 76 へ |
| ● 「主傷病名」に関して複数回手術した場合、手術日の回答方法 | ⇒ 質疑応答 問 77 へ |
| ● 輸血のみが行われた場合の「手術の有無」の回答方法 | ⇒ 質疑応答 問 78 へ |

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

転帰

一般診療所退院票

一般診療所票

(13)

—

- 退院の事由について、該当する数字を1つ選び○で囲みます。

1 治癒	医師・歯科医師から治癒した旨の診断を受けて退院した場合
2 軽快	治癒には至らないが、入院時より症状が好転し、 退院しても支障はないという医師・歯科医師の診断によって退院した場合
3 不変	入院時より症状が変わらず、医師・歯科医師の判断によって退院した場合
4 悪化	入院時より症状が悪化し、医師・歯科医師の判断によって退院した場合
5 死亡	死亡による退院の場合 (ここを選択した場合、「(14)退院後の行き先」を回答する必要はありません。)
6 その他	上記「1」～「5」以外の事由により退院した場合 ○ 医師・歯科医師の許可によらず専ら患者側の都合によって退院した者、正常分娩、健康診断受診者、検査入院(加療を伴わないもの)を含む

(転帰) 選択肢に迷う例

⇒ 質疑応答 問 80～82 を参照

- | | |
|--|---------------|
| ● 帝王切開や人工妊娠中絶の場合の選択肢 | ⇒ 質疑応答 問 81 へ |
| ● 主傷病で入院していた患者が、それとは異なる傷病の治療のために退院した場合 | ⇒ 質疑応答 問 82 へ |

*括弧内の数字は、調査票上の項目番号。

退院後の行き先

一般診療所退院票

一般診療所票

(14)

—

(13) 転帰で「5 死亡」を選択した場合は、回答不要です。

退院後の行き先

- 退院後の居場所と受療形態について、該当する数字を1つ選び○で囲みます。

※ 家庭からの通院については、主傷病以外についても含めて判断します。

家庭	1 当院に通院	家庭から通院する場合
	2 他の病院・診療所に通院	家庭から他の病院または診療所に通院する場合
	3 在宅医療(訪問診療・訪問看護等)	家庭で往診・訪問診療・訪問看護を受ける場合
	4 その他	・上記「1」～「3」以外の場合 ・退院後の居場所が家庭であって、通院しない者、往診・訪問診療・訪問看護を受けない者または不明の者を含む
他の病院・診療所に入院	5 地域医療支援病院・特定機能病院	他の地域医療支援病院、特定機能病院に入院した場合
	6 その他の病院	地域医療支援病院、特定機能病院以外の他の病院に入院した場合
	7 診療所	他の診療所に入院した場合
	8 介護医療院に入所	介護医療院に入所した場合
	9 介護老人保健施設に入所	介護老人保健施設に入所した場合
	10 介護老人福祉施設に入所	介護老人福祉施設に入所した場合
	11 社会福祉施設に入所	社会福祉施設(障害福祉施設・児童福祉施設等)に入所した場合
	12 その他(不明等)	上記「1」～「11」以外の場合(不明の場合も含む)

(退院後の行き先) 選択肢に迷う例

⇒ 質疑応答 問 68、83～85 を参照

- 「入院前の場所」「退院後の行き先」は、主傷病についてのみ回答するのか。 ⇒ 質疑応答 問 68 へ
また、主傷病かどうかによらず回答した場合、複数の選択肢に該当するのだが、
どれを優先すればよいか。
- 入院の理由とは異なる傷病のため一旦退院手続きを行い、他病床に転床した場合 ⇒ 質疑応答 問 83 へ
の回答方法

5. 患者調査関係法令

5-1 統計法に定められた統計調査

国や、地方公共団体が統計調査を実施する場合の基本的な事項を定めた法律として統計法（平成 19 年法律第 53 号）があり、患者調査は、この統計法の規定による『基幹統計』となっています。

また、患者調査に関する事務は、統計法施行令（平成 20 年政令第 334 号）の中で、法定受託事務と位置付けられています。

【統計法】(抄)

(定義)

第 2 条

1～3(略)

4 この法律において「基幹統計」とは、次の各号のいずれかに該当する統計をいう。

1～2(略)

3 行政機関が作成し、又は作成すべき統計であって、次のいずれかに該当するものとして総務大臣が指定するもの

イ 全国的な政策を企画立案し、又はこれを実施する上において特に重要な統計

ロ 民間における意思決定又は研究活動のために広く利用されると見込まれる統計

ハ 国際条約又は国際機関が作成する計画において作成が求められている統計その他国際比較を行う上において特に重要な統計

5(略)

6 この法律において「基幹統計調査」とは、基幹統計の作成を目的とする統計調査をいう。

7～12(略)

(基幹統計の指定)

第 7 条 総務大臣は、第 2 条第 4 項第 3 号の規定による指定（以下この条において単に「指定」という。）をしようとするときは、あらかじめ、当該行政機関の長に協議するとともに、統計委員会の意見を聴かなければならない。

2 総務大臣は、指定をしたときは、その旨を公示しなければならない。

3 前 2 項の規定は、指定の変更又は解除について準用する。

【統計法施行令】(抄)

(地方公共団体が処理する事務)

第 4 条 基幹統計調査に関する事務のうち、別表第 1 の第 1 欄に掲げる基幹統計に係るものについてはそれぞれ同表の第 2 欄に掲げる当該事務の区分に応じ都道府県知事が同表の第 3 欄に掲げる事務を、市町村長（特別区の長を含む。以下同じ。）が同表の第 4 欄に掲げる事務を行うこととし、(中略)行うこととする。

2～3(略)

5-2 患者調査の実施方法

調査の時期、調査の対象、調査事項など患者調査を実施するための具体的事項は、「患者調査規則」（昭和 28 年厚生省令第 26 号）に定められています。

【患者調査規則】(抄)

(調査の期日)

第 4 条 患者調査は、3 年目ごとの各年の厚生労働大臣の定める期日によつて行う。ただし、厚生労働大臣が必要と認めた場合には、その中間の時期において臨時の患者調査を行うことができる。

(調査客体)

第 5 条 患者調査は、厚生労働大臣が指定する医療施設における患者について行う。

5-3 報告義務及び守秘義務

統計法では、基幹統計調査の調査対象者には報告の義務を、調査を実施する側（国、地方公共団体など）には、調査票の記入内容を統計目的以外に用いてはならないこと、調査で知り得た事項や調査票の記入内容を他に漏らしてはならないことを規定しており、これらに反したときには罰則が定められています。

【統計法】(抄)

(報告義務)

第 13 条 行政機関の長は、(中略)基幹統計調査を行う場合には、基幹統計の作成のために必要な事項について、個人又は法人その他の団体に対し報告を求めることができる。

2 前項の規定により報告を求められた個人又は法人その他の団体は、これを拒み、又は虚偽の報告をしてはならない。

3(略)

(調査票情報等の利用制限)

第 40 条 行政機関の長、指定地方公共団体の長(中略)は、この法律(中略)に特別の定めがある場合を除き、その行った統計調査の目的以外の目的のために、当該統計調査に係る調査票情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

2～3(略)

(守秘義務)

第 41 条 次の各号に掲げる者は、当該各号に定める業務に関して知り得た個人又は法人その他の団体の秘密を漏らしてはならない。

1～4(略)

5 地方公共団体が第 16 条の規定により基幹統計調査に関する事務の一部を行うこととされた場合において、基幹統計調査に係る調査票情報、(中略)の取扱いに従事する当該地方公共団体の職員又は職員であった者 当該情報を取り扱う業務

6(略)

(罰則)

第 57 条 次の各号のいずれかに該当する者は、2 年以下の拘禁刑又は 100 万円以下の罰金に処する。

1(略)

2 第 41 条の規定に違反して、その業務に関して知り得た個人又は法人その他の団体の秘密を漏らした者

3(略)

2(略)

第 59 条 第 41 条各号に掲げる者が、その取り扱う同条各号に規定する情報を、自己又は第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用したときは、1 年以下の拘禁刑又は 50 万円以下の罰金に処する。

2(略)

第 60 条 次の各号のいずれかに該当する者は、6 月以下の拘禁刑又は 50 万円以下の罰金に処する。

1 第 13 条に規定する基幹統計調査の報告を求められた個人又は法人その他の団体の報告を妨げた者

2 基幹統計の作成に従事する者で基幹統計をして真実に反するものたらしめる行為をした者

第 61 条 次の各号のいずれかに該当する者は、50 万円以下の罰金に処する。

1 第 13 条の規定に違反して、基幹統計調査の報告を拒み、又は虚偽の報告をした個人又は法人その他の団体(法人その他の団体にあつては、その役職員又は構成員として当該行為をした者)

2～3(略)

【患者調査規則】(抄)

(報告の義務)

第 9 条 第 5 条の規定により指定された医療施設の管理者は、第 6 条第 1 項各号に掲げる事項について、調査票に記入し、都道府県知事の定める期限までにその医療施設の所在地を管轄する保健所長に提出しなければならない。

6. 質疑応答

調査票

問 1 一般診療所票の患者番号は、入院と外来に分けて一連番号を記載するのか。

(答) 入院と外来に分けて一連番号を記載します。

問 2 医療施設で調査票作成する際に欄外に患者のID番号や患者名を記入してもよいか。

(答) メモとして記入しても差し支えありませんが、調査票を提出する際には患者が特定されないような措置をお願いします。
(例：鉛筆で書いて消しゴムで消す、塗りつぶす等)

調査対象

問 3 10月の調査日が休診の医療施設は、どのような対応をとるべきか。調査日を変更して調査するのか。

(答) 調査日は変更しません。

なお、調査日が休診であっても、救急の外来患者があった場合は、その患者について外来票を作成します。
また、10月調査日の休診に関係なく、入院票は10月調査日時点で入院している全ての患者、退院票は9月中に退院した全ての患者について作成します。

問 4 9月の途中、または10月の調査日に休診する施設について、退院票は作成すべきか。

(答) 退院票は9月1日～9月30日の1か月間の状況を調査するため、月の途中で休診に入り、患者がいなかった場合は退院票の作成対象外になります。

また、9月は休診していなかったが、10月の調査日に休診する場合は、9月中の退院患者分の退院票を作成します。

問 5 施設の移転により、9月中に一旦全ての患者を退院させて、移転先の施設へ移動させる場合、退院票は作成すべきか。

(答) 事実上の退院ではないため、退院票は作成しません。

ただし、移転先に移動せずに退院する患者については、退院票を作成します。

問 6 (1) 9月中に同施設内の介護医療院に移った患者については、退院票の作成対象となるか。
(2) また、9月中に介護医療院を退院した患者及び10月の調査日当日に介護医療院に入院していた患者は調査票の作成対象か。

(答) (1) 9月中に退院して同施設内の介護医療院に移った患者については、退院票を作成します。

(2) また、介護医療院は医療施設ではなく介護保険施設であり、患者調査の対象外であるため、介護医療院の入院・退院患者は調査票の作成対象とはなりません。

問 7	同じ施設が何度も調査対象になるのはなぜか。
-----	-----------------------

(答) 調査対象は、全国の医療施設を地域や施設の種類ごとにグループに分けたうえで、各グループの中から定められた数を無作為に抽出しています。グループ内における医療施設によって調査対象となる回数に基本的には差異はなく、連続して調査対象となってしまう場合があります。

また、500床以上の病院は悉皆（しっかい）調査のため、毎回調査対象となります。

患者調査は、医療施設を利用する患者についてその傷病の状況等の実態を明らかにし、医療行政の基礎資料を得ることを目的とした極めて重要な調査です。

ご負担をおかけしますが、調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただけますようお願いいたします。

[参考：抽出グループの分け方]

- ・病院 … 二次医療圏、病院の種類、病床規模
- ・一般診療所 … 都道府県、主たる診療科目、病床の有無
- ・歯科診療所 … 都道府県

問 8	調査日に外泊している入院患者は調査の対象か。
-----	------------------------

(答) 調査日に外泊をしていても、調査日に入院していることに変わりありませんので、調査票を作成します。

問 9	日付をまたいで診療を行った場合について 例えば、調査日の午後11時に急患で来た患者が、そのまま治療を続け、翌日に入院の手続きをした場合は調査対象か。
-----	---

(答) 調査日に来院してそのまま入院した場合は、入院患者として調査票を作成します。

問 10	病院や一般診療所の歯科患者は調査対象か。
------	----------------------

(答) 診療科目にかかわらず調査の対象となりますので、該当する調査票に記入します。

問 11	新生児は調査対象か。
------	------------

(答) 産婦の入院に伴って入院していて、新生児が誰でも受ける健康管理行為、健康診断等を受け、健康上問題が無い新生児は調査の対象外となります。

ただし、新生児本人が、何らかの疾患を有し、治療が行われた場合は調査の対象となりますので、調査票を作成します。

問 12	病院入院（奇数）票や一般診療所票（入院分）は、調査日に新しく入院した患者のみ調査をすればよいか。
------	--

(答) 調査日に新しく入院した患者のみではなく、調査日現在に入院していることが診療録（カルテ）に記録されている全ての患者が対象となります。

問 13	市町村主催の健康診断を施設が受託している場合、健康診断を受けに来た患者は調査対象となるか。
------	---

(答) 診療録（カルテ）を作成している場合は調査票を作成します。

また、調査票上の「受療の状況」は、「4 健康者に対する検査、健康診断（査）・管理」を○で囲みます。

問 14	<p>特別養護老人ホーム内の医務室について、</p> <p>(1) 10月の調査日に医師が来る日ではなかった等の理由で診療を行わなかった場合はどのように対応すればよいか。</p> <p>(2) また、調査日に診療を行うが、診療録（カルテ）を医務室内で管理しておらず、医師の派遣元の医療施設にて診療録を作っている場合は、調査票を作成すべきか。</p>
------	--

- (答) (1) 特別養護老人ホーム内の医務室で調査日に診療を行わなかった場合は、患者0人として管轄の保健所に報告してください。なお、報告方法（電話連絡、0と記載した送付票をメールで送付など）は各保健所で決めていますので、管轄の保健所へご確認くださいようお願いします。
- (2) 医務室内で診療録の管理を行っておらず、医師の派遣元の医療施設にて診療録を作っている場合は、調査票を作成する必要はありません。

問 15	ある主傷病のために内科に入院していた患者が、同傷病の手術のために外科へ転床したが、退院票を作成すべきか。事務手続き上は内科の退院手続きを取っている。
------	--

- (答) 同一の傷病により転床した場合は、退院票を作成しません。ただし、別の傷病によって外科へ再入院した場合は、退院票を作成します。

問 16	患者が同じ日に2回受診（同日再診）した場合、調査票は別々に作るべきか。「外来の種類」、「受療の状況（歯科診療所票は「傷病名」）」、「診療費等支払方法」は、どのように回答すべきか。
------	---

- (答) 同一のカルテに記録されている限り、作成する調査票は1枚とします。
- 「外来の種類」では、初診を優先して回答してください。2回とも再来であれば、再来の中で最初の受診について回答してください。
 - 「受療の状況」では、2回の受診について、
 - ・ 受診理由が同一の場合、その受診理由を回答します。
 - ・ 受診理由が別々の場合、医師の判断により、より重い方を回答してください。
 - 「診療費等支払方法」では、受診理由が同一・別々のどちらの場合も、2回の受診で使用した支払方法の全てを○で囲んでください。

また、2回の受診について別々のカルテに記録した場合は、調査票を2枚作成します。それぞれについての「受療の状況」及び「診療費等支払方法」を回答ください。

問 17	同一の外来患者が同施設内で独立した診療科を2科以上の診療を受けた場合、調査票は別々に作成すべきか。もし同じ調査票に記入する場合、「受療の状況」「診療費等支払方法」はどのように回答すべきか。
------	--

- (答) 複数科を受療した場合、診療録（カルテ）の作成方法と傷病の状況により、下記のとおり調査票を作成します。

- 別々の診療録（カルテ）を作成している場合
 - ・ 基本的にそれぞれ別の調査票を作成します。
 - ・ ただし、同じ傷病について複数科を受診した場合は、調査票の作成は1枚です。
- 同じ診療録（カルテ）に記録している場合
 - ・ 調査票の作成は1枚です。
 - ・ 「受療の状況」は、医師の判断により最も重い傷病1つについて記入します。
 - ・ 「診療費等支払方法」は、使用した支払方法を全て回答します。

提出方法

問 18	同一の施設で、複数の提出方法（電子調査票（オンライン）、電子調査票（CD-R等）、調査票（紙）から2つ以上）を併用して提出してもよいか。
------	--

（答） 同一施設からの提出方法は、同一患者の重複提出を避けるため、可能な限り全ての調査票をいずれか1つの方法で提出するようお願いいたします。

やむを得ず複数の提出方法を併用する場合も、1種類の調査票内で複数の提出方法は混在させないでください。

調査項目

【外来の種別】

問 19	調査日に治療を受けた傷病とは別の傷病で過去に同一医療施設を訪れていた場合、「初診」、「再来」のどちらに該当するか。
------	---

（答） 「初診」に該当します。

問 20	予防接種は、「初診」、「再来」のどちらに該当するか。
------	----------------------------

（答） 初診（「1 通院」または「2 往診」）としますが、数回に分けて行う予防接種で2回目以降の接種は「再来」に該当します。

問 21	検診車は「通院」、「往診」のどちらに該当するか。
------	--------------------------

（答） 外来の「往診」に該当します。

問 22	電話再診の場合、「外来の種別」はどれに該当するか。
------	---------------------------

（答） 「再来」の「通院」に該当します。

問 23	調査日の午前中に医師が訪問診療を行い、午後には看護師が訪問診療を行った場合、「外来の種別」は「訪問診療」、「医師以外の訪問」のどちらに該当するか。
------	---

（答） 調査日に同一患者について通院、往診、訪問診療、医師以外の訪問が重複した場合は、最初に診療等を行ったものを選択します。本問の場合 は「訪問診療」に該当します。

問 24	特別養護老人ホーム内の医務室を受診した患者について、「外来の種別」はどれに該当するか。
------	---

（答） 特別養護老人ホーム内の診療所で診療行為を行った場合は外来の通院とします。

また、ホームに入所している患者のベッドまで出向いて診療行為を行った場合は、外来の往診か訪問診療に該当します。

【過去の入院の有無】

問 25	退院手続きをとって転床をした場合、「過去の入院の有無」の30日以内の再入院に該当するか。
------	--

（答） 転床による再入院は該当しません。

一度院外へ退院してから30日以内の早期再入院の場合が該当します。

【受療の状況】

問 26	<p>健康診断を受けた患者に異常が見つかり、そのまま治療を受けた場合、</p> <p>(1) 「受療の状況」は、「1 傷病の診断・治療」と「4 健康者に対する検査、健康診断（査）・管理」のどちらに該当するか。</p> <p>(2) 「診療費等支払方法」について、健康診断にかかった分と治療にかかった分を別々に支払うケースと、治療にかかった分も健康診断の診療費の一部として支払うケースとがあるが、どのように回答すべきか。</p>
------	---

(答) (1) 「受療の状況」は「傷病の診断・治療」とします。

(2) 「診療費等支払方法」については、治療があったとしても健康診断の一部とみなし全て公費負担になるのであれば、「その他の公費負担によるもの」に該当します。一方、治療にかかった費用が患者の医療保険から支払われるのであれば、医療保険の中で該当するものを○で囲んでください。

問 27	<p>調査日当日に診察と予防接種の両方を行った、または健康診断と予防接種の両方を行った等で、「受療の状況」が2つ以上該当する場合はどれを選ばよいか。また、そのときの「診療費等支払方法」はどのように回答すべきか。</p>
------	---

(答) 「受療の状況」は1つしか選択できないため、2つ以上該当する場合は以下のルールで1つを選択してください。

- 「1 傷病の診断・治療」と他の選択肢で複数該当の場合
「1 傷病の診断・治療」を優先してください。
- 「5 予防接種」と他の選択肢で複数該当の場合
他の選択肢を優先してください。（「5 予防接種」は予防接種のみが該当する場合の選択肢です。）

また、この場合の「診療費等支払方法」については、「受療の状況」で選択したものにかかわらず、調査日に支払いをした方法を全て選択してください。

問 28	<p>別日に行われた健康診断の結果を聞きに外来を受診した場合、「受療の状況」及び「診療費等支払方法」はどのように回答すべきか。</p>
------	---

(答) 以下のルールで選択してください。

- 受療の状況・・・「4 健康者に対する検査、健康診断（査）・管理」を選択してください。
- 診療費等支払方法・・・健康診断の際に支払われた方法を選択してください。

問 29	<p>ある症状のために検査入院をした患者について、検査の結果、異常がなかった。この場合の「主傷病名」はどのように回答すべきか。</p>
------	---

(答) 検査入院になった理由の症状を「主傷病名」に記入します。

(例：症状からある傷病を疑い、精密検査のため入院したのであれば「傷病名＋疑い」（前立腺癌の疑い 等）、
胸の痛みがあり、精密検査のため入院したのであれば「胸の痛み」、
自覚症状はなく、健康診断で心電図に異常があったのであれば「心電図の異常」 など。)

問 30	<p>外傷の治療は終わったが、その後のリハビリテーションに通っている患者の場合、「受療の状況」はどれに該当するか。</p>
------	---

(答) 治療が完了し、その後のリハビリテーションやアフターケアのために通院しているのであれば、「その他の保健サービス」に該当します。

問 31	セカンドオピニオンの場合、「受療の状況」はどれに該当するか。
------	--------------------------------

(答) 「その他の保健サービス」に該当します。
ただし、その場で実際に診断・治療を行った場合は、「1 傷病の診断・治療」を○で囲み、「主傷病名」を記入します。

問 32	治験のみを行った場合、「受療の状況」をどのように回答すべきか。
------	---------------------------------

(答) 「1 傷病の診断・治療」を○で囲み、治験を受ける理由となった傷病を「主傷病名」として記入します。
なお、傷病のない健康者に対する場合は、「その他の保健サービス」とします。

問 33	不妊治療の場合、「受療の状況」をどのように回答すべきか。
------	------------------------------

(答) 「1 傷病の診断・治療」を○で囲み、不妊治療を行う理由となった傷病を「主傷病名」として記入します。
(例: 「子宮性不妊症」「男性不妊(症)」など)

問 34	吸引分娩や鉗子(かんし)分娩を行った場合、「受療の状況」はどのように回答すべきか。
------	---

(答) 吸引分娩や鉗子分娩は処置であり、傷病(病態)を有した分娩ですので、受療の状況の「1 傷病の診断・治療」を○で囲み、吸引分娩や鉗子分娩を行う理由となった傷病を「主傷病名」として記入します。
(例: 「続発性微弱陣痛による吸引分娩」「児頭回旋異常による鉗子分娩」など)

問 35	帝王切開の場合、どのように回答するのか。
------	----------------------

(答) 帝王切開は処置であり、傷病(病態)を有した分娩ですので、受療の状況の「1 傷病の診断・治療」を○で囲み、帝王切開を行う理由となった傷病を「主傷病名」として記入します。
(例: 「子宮筋腫合併妊娠による帝王切開」「骨盤位(逆子)による帝王切開」「多胎妊娠による帝王切開」など)

問 36	会陰部切開(えいんぶせっかい)を伴う分娩の場合、「受療の状況」はどのように回答すべきか。
------	--

(答) 単胎の正常分娩に伴う処置として会陰部切開を行った場合は、「2 正常分娩(単胎自然分娩)」を○で囲みます。
傷病(病態)を有した分娩に伴う処置として会陰部切開を行った場合は、「1 傷病の診断・治療」を○で囲み、会陰部切開を行う理由となった傷病を「主傷病名」として記入します。
(例: 「児頭骨盤不均衡による会陰部切開」「回旋異常による会陰部切開」など)

問 37	出産した人が退院する場合、「2 正常分娩(単胎自然分娩)」、「3 正常妊娠・産じょくの管理」のどちらに該当するか。
------	---

(答) 傷病(病態)を有しない単胎の正常分娩であれば「2 正常分娩(単胎自然分娩)」に該当します。
傷病(病態)を有する分娩で、その診療や処置を行った場合、及び双胎以上の正常分娩は、「1 傷病の診断・治療」を○で囲み、「主傷病名」を記入します。

問 38	別紙「患者調査における「主傷病名」「副傷病名」の記入について」に記載されている<傷病名例示>以外のものについても主傷病名はできるだけ詳しく記入すべきか。
------	--

(答) 別紙の例示は、代表的な傷病名を列挙したものであり、例示以外の傷病名についてもできるだけ詳細に記入します。

問 39	病名が「不明」、もしくは「～の疑い」といった場合、「主傷病名」はどのように記入するのか。
------	--

(答) わかる範囲で詳細に記入します。

問 40	骨粗鬆症(こつそしょうしょう)による病的骨折の場合、「主傷病名」にはどのように記入するのか。
------	--

(答) 「主傷病名」には、「閉経後骨粗鬆症による病的骨折」のように、病的骨折を伴う骨粗鬆症になった原因についても可能な限り詳細に記入します。

問 41	「主傷病名」を PTSD などの一般的な略語で記入してよいか。
------	---------------------------------

(答) できるだけ日本語で記入し、略語、俗称及びあまり使用されない医学用語は避けてください。

問 42	「主傷病名」を ICDコードで記入してよいか。
------	-------------------------

(答) ICDコードでの記入は行わないでください。

問 43	複数の傷病名がある場合、何を基準にして主傷病名を選ぶべきか。診療報酬の高い傷病名を主傷病名としてよいか。
------	--

(答) 傷病が複数ある場合は、医師の判断で最も重い傷病名を主傷病名として記入します。
患者調査では、必ずしも診療報酬の高い傷病名を主傷病名とはしておりません。なお、より重い傷病の診療報酬がより高いとは限りませんので、ご注意ください。

問 44	傷病 A で通院していた患者が、調査日に異なる傷病 B で診療を受けた場合、「主傷病名」はどちらを記入するのか。
------	--

(答) 調査日に主に診療した傷病名を記入します。

問 45	当院での入院の主な目的とは別の傷病で転院となった場合、「受療の状況」では転院の原因となった傷病について回答すべきか。 (例 統合失調症の治療のために入院していた患者が、悪性腫瘍で他の病院に転院することになった場合 等)
------	--

(答) 転院の原因になった傷病ではなく、貴施設での入院の主な目的について回答します。(例の場合では、「統合失調症」を記入します。)

問 46	主たる傷病ではない病気で死亡した場合、主傷病名には、死亡の原因となった傷病名を記入すべきか。
------	--

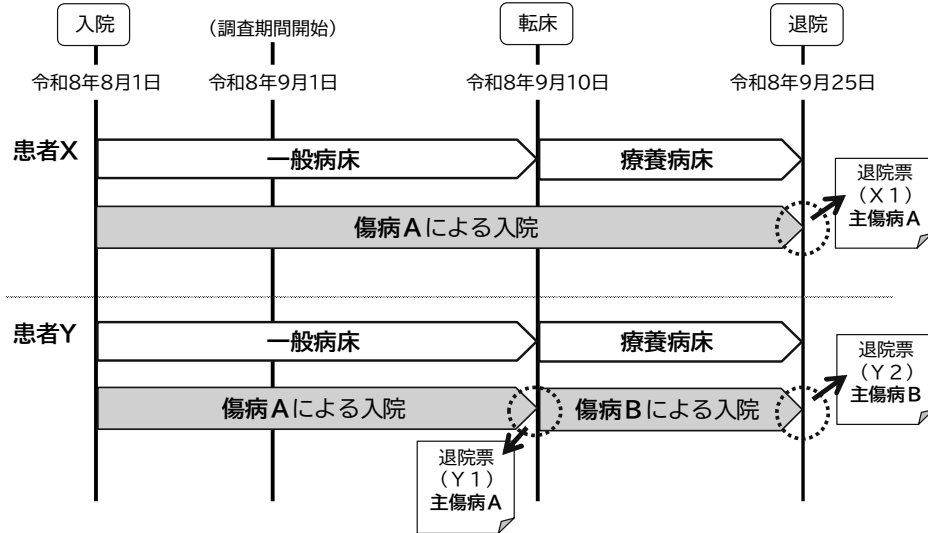
(答) 死亡退院の場合は、主に治療していた傷病について記入します。

問 47	退院患者の主傷病名について、入院後、入院の理由となった傷病名とは異なる傷病名によって転床し、その後退院した場合、どの時点の傷病名を記入すべきか。
------	--

(答) 入院時とは異なる傷病により転床した場合は、転床日が令和8年9月中であれば、転床時に一度退院票を作成し、それまでの入院の理由となっていた傷病名を記入します。
 転床後の退院も令和8年9月中であれば、改めて退院票を作成し、退院時に入院の理由となっていた傷病名を記入します。

【参考】 転床と退院票の作成について

<例> 患者X、Yともに8/1に一般病棟に入院 → 9/10に療養病棟へ転床 → 9/25に退院



問 48	「副傷病名」の「15 精神疾患」に、脳性麻痺、パーキンソン病、睡眠障害などの神経系の疾患は含まれるか。
------	---

(答) 「15 精神疾患」には、原則として、神経系の疾患は含みませんが、例外として「アルツハイマー病」と「てんかん」については含みます。
 このため、「アルツハイマー病」と「てんかん」を除く脳性麻痺、パーキンソン病、睡眠障害等の神経系の疾患については、「16 その他の疾患」を○で囲んでください。

問 49	「副傷病名」の「15 精神疾患」に含まないとする「知的障害<精神遅滞>」の場合は、どのように回答すべきか。
------	---

(答) 「16 その他の疾患」に該当します。
 なお、「自閉症」は「15 精神疾患」に含みます。

【診療費等支払方法】

問 50	支払方法に変更があった場合は、どのように回答すべきか。
------	-----------------------------

(答) 調査日時点での診療費等支払方法を記入します。
 なお、退院患者の場合は、退院時の支払方法を記入します。

問 51	国民健康保険の加入者で、市公費負担医療を受けている場合、「診療費等支払方法」はどう記入すべきか。
------	--

(答) 健康保険と条例等による地方自治体が発行する公費負担医療制度を併用している患者は、以下の3つを○で囲みます。
 ・ 「2 医療保険等、公費負担医療」
 ・ 「I (医療保険等)」は、その患者の加入している保険（この場合「国民健康保険」）。
 ・ 「II (公費負担医療)」は、「その他の公費負担によるもの」。

問 52	インフルエンザの予防接種や新型コロナワクチン接種など市区町村の条例に基づく助成が行われていて、一部自費診療であった場合、どれに該当するか。
------	---

- (答) 以下の3つを○で囲みます。
- ・「1 自費診療（保険外併用療養費を含む）」
 - ・「2 医療保険等、公費負担医療」
 - ・「Ⅱ（公費負担医療）」の「その他の公費負担によるもの」

問 53	交通事故の治療費について、医療保険を使って支払われたが、自動車損害賠償責任保険が今後下りる場合、「診療費等支払方法」はどう記入すべきか。
------	--

(答) 自動車損害賠償責任保険の適用が決定しているのであれば、「自動車損害賠償保障法」とします。

問 54	調査日の診療について、一旦自費や健康保険等で支払っているが、後に返金の上、別の支払方法に変更となった場合、「診療費等支払方法」はどちらで回答すべきか。
------	---

(答) 変更後の支払方法を回答してください。

問 55	自動車事故の任意保険で支払った場合、どれに該当するか。
------	-----------------------------

(答) 任意保険で支払った部分について、「診療費等支払方法」は「1 自費診療（保険外併用療養費を含む）」に該当しません。

問 56	健康保険の特例退職被保険者の「診療費等支払方法」はどれに該当するか。
------	------------------------------------

(答) 退職前に加入していた医療保険が該当します。

問 57	高齢受給者制度の適用を受ける患者は、どのように回答すべきか。
------	--------------------------------

(答) 「Ⅰ（医療保険等）」では、加入している医療保険を○で囲み、「Ⅱ（公費負担医療）」に該当するものがあれば、こちらも○で囲みます。

問 58	医療施設で治験を行い、対象患者の医療費は製薬会社が支払っているが、この場合の「診療費等支払方法」はどれに該当するか。
------	--

(答) 治験における、製薬会社負担分や自己負担分については「1 自費診療（保険外併用療養費を含む）」を選択してください。

なお、治験期間中に実施される診療において健康保険請求されるものがある場合は（初診料や診察料など）、併せて、「2 医療保険等、公費負担医療」と「Ⅰ（医療保険等）」のなかから該当するものを選択してください。

(参考) 製薬会社依頼の治験の場合、治験薬が無償で提供されると同時に治験薬を飲用している期間は、「治験で必要とする検査」と「治験薬と同じような働きをする薬」の費用は製薬会社の負担となる。

問 59	透析を主に行っている患者の診療費等支払方法について、特定疾病療養費や重度障害医療費助成はどのように回答すべきか。
------	--

- (答) ・特定疾病療養費・・・それぞれが加入している健康保険に付随するもののため、I（医療保険等）から該当する番号を○で囲みます。
 ・重度心身障害者医療費助成・・・都道府県や市町村が実施しているもの。「その他の公費負担」を○で囲みます。

問 60	2つの傷病を有する外来患者について、一方の支払いは労働災害、もう一方の傷病は他の支払方法で支払い、診療録（カルテ）が2枚ある。調査票は診療録1枚ずつ作成すべきか。
------	---

- (答) 別々の傷病でそれぞれ診療録（カルテ）がある場合、調査票は2枚作成してください。

問 61	窓口で患者が支払うお金が0円の場合はどのように回答すべきか。
------	--------------------------------

- (答) 患者が窓口で支払う金額が0円でも、患者にかかった医療費が医療保険や公費負担・介護保険等で賄われている場合は、該当する番号を○で囲んでください。
 また、窓口支払いも0円かつ医療費をどこにも請求しない場合は「1 自費診療（保険外併用療養費を含む）」のみ○で囲んでください。

【病床の種別】

問 62	(1) 退院患者について、9月中に転床があった場合、「病床の種別」はいつの時点のものを回答すべきか。 (2) 入院患者において調査日当日に転床した場合は、どちらを回答すべきか。
------	---

- (答) (1) 退院患者の「病床の種別」は、退院時の病床の種別を回答します。
 (2) 入院患者が調査日当日に転床した場合は、転床後の病床を回答します。

【紹介の状況】

問 63	「紹介の状況」は、いつの時点の状況を回答すべきか。
------	---------------------------

- (答) 「受療の状況」で回答した内容について、入院患者の場合は入院時、外来患者の場合は初診時の紹介の状況を記入します。

問 64	他の施設から口頭での紹介を受けてきた患者や、友人からこの医療施設を紹介された、といったケースは「紹介あり」に該当するか。
------	--

- (答) 診療録（カルテ）に紹介ありと記載がある場合は、「紹介あり」に該当します。診療録に記載されているかどうかで判断してください。

問 65	一般病床から療養病床に移った際に院内紹介があった場合は、「7 その他から」に該当するか。
------	--

- (答) 同じ傷病で継続して入院している場合は、一般病床に入院した時の紹介の状況を記入します。
 異なる傷病について現在の診療科を紹介された場合は、「7 その他から」に該当します。

問 66	同じ傷病で入退院を繰り返している患者があり、最初の入院時だけ紹介があったが、2回目以降は紹介ありになるのか。
------	--

- (答) 紹介ありになりません。
 同じ傷病で入退院などを繰り返していたとしても、その都度において紹介の有無を判断してください。

【入院前の場所】

問 67	家庭から外来初診で受診し、そのまま入院した退院患者の「入院前の場所」は、「1 当院に通院」、「4 その他」のどちらに該当するか。
------	--

(答) 「1 当院に通院」ではなく、「4 その他」に該当します。

問 68	「入院前の場所」「退院後の行き先」は、主傷病についてのみ回答するのか。 また、主傷病にかかわらず回答した場合、1~4のうち複数の選択肢に該当する。どのように回答すべきか。(家庭から別々の傷病で複数の医療施設に通院した場合、同じ傷病で複数の医療施設に通院した場合 等)
------	--

(答) 主傷病かどうかによらず、把握している限りで回答します。
(当院への通院があり、他の通院については把握していない場合は「1 当院に通院」を選択します。
当院に通院もなく、不明の場合は「12 その他(不明等)」を選択します。)

ただし、1~4の中で複数該当した場合は、以下の優先順位で選択してください。

- ◆複数の傷病があり、1~4のうち2つ以上該当した場合
(例：調査票の「主傷病名」で回答した傷病で当院に通院しながら、別の傷病で訪問診療も受けた 等)
→ 「受療の状況」で回答した傷病についての受診を優先して回答します。
(上記の例であれば、「1 当院に通院」を優先します。)
- ◆同じ傷病について複数の医療機関を受診しており、1~4のうち2つ以上該当した場合
(例：数ヶ月に1度当院を受診するが、普段は2週間に1度地元の一般診療所へ通院する場合 等)
→ 受診頻度の高い方の医療施設を優先して回答します。
(上記の例であれば、「2 他の病院・診療所へ通院」を優先します。)

問 69	他院からの紹介状を持参した上で入院となった場合、「入院前の場所」は「1 当院に通院」と「2 他の病院・診療所に通院」のどちらに該当するか。
------	---

(答) 患者が紹介状を持参して外来を受診し、当院での診察の結果、入院が必要との判断で、
後日入院となった場合は、「1 当院に通院」
即日入院となった場合は、「2 他の病院・診療所に通院」
に該当します。

【来院時の状況】

問 70	「来院時の状況」は、いつの時点の状況を記入すべきか。
------	----------------------------

(答) 調査票に記入されている傷病について、
入院患者及び退院患者の場合は入院時の状況
外来患者の場合は初診時の状況
を記入します。

【入院の状況】

問 71	精神科病院で自傷・他害のおそれがあるため措置入院している患者は、どれに該当するか。
------	---

(答) 「5 その他」に該当します。

問 72	正常分娩の母親は、どれに該当するか。
------	--------------------

(答) 「5 その他」に該当します。

問 73	「3 受け入れ条件が整えば退院可能」とは、どの程度の条件が整った場合か。
------	--------------------------------------

(答) 入院治療の必要がなくなっている状態であるが、何らかの事情により退院できない場合をいいます。
(条件が整う場合の例：他の医療施設への入院が決まる、入所施設への入所が決まる、家庭において在宅医療の体制が整う場合 等)

問 74	調査日に死亡退院した場合、「入院の状況」はどれに該当するか。
------	--------------------------------

(答) 「5 その他」に該当します。

問 75	すでに退院が決まっている患者の「入院の状況」はどれに該当するか。
------	----------------------------------

(答) 「3 受け入れ条件が整えば退院可能」は退院が決まっていない患者に対する選択肢なので、これ以外の選択肢から状況に応じて選択してください。

【手術の有無】

問 76	今回の入院において、「受療の状況」で回答した主傷病と、その他の傷病それぞれ1回ずつ手術を行った場合、どちらの手術日を記入すべきか。
------	---

(答) 複数傷病で入院していた場合は、「受療の状況」において回答した主傷病に関する手術日を記入します。

問 77	1回の入院で「受療の状況」で回答した主傷病に関して複数回手術した場合、手術日はどのように回答すべきか。
------	---

(答) 「受療の状況」で回答した「主傷病名」に記入された傷病について、複数回手術を行った場合は、
診療報酬の高い手術の手術日、
診療報酬が同じ場合は、先に行った手術の手術日
を記入します。

問 78	輸血のみが行われた場合は、どのように回答すべきか。
------	---------------------------

(答) 輸血は手術に該当しませんので、「手術の有無」は「2 無」とします。

問 79	手術については、外科、内科にかかわらず記入すべきか。
------	----------------------------

(答) 診療科にかかわらず手術があった場合は、「手術の有無」は「1 有」とします。

【転帰】

問 80	入院患者の症状に変化がみられず、他の施設に転院した場合、退院票の「転帰」は、どれに該当するか。
------	---

(答) 医師の判断で退院したとの整理であれば、「3 不変」に該当します。

問 81	分娩や人工妊娠中絶での入院だった場合、退院票の「転帰」はどれに該当するか。
------	---------------------------------------

(答) 帝王切開、人工妊娠中絶など、それぞれを行った原因となる傷病がある場合は、主傷病名に記載の上、その傷病の状況により転帰を選択してください。
原因となる傷病がない（正常分娩、本人の希望による等）場合は、「6 その他」に該当します。

問 82	主傷病で入院していた患者が、それとは異なる傷病の治療のために退院した場合、退院票の「転帰」はどれに該当するか。
------	---

(答) 「6 その他」に該当します。

【退院後の行き先】

問 83	入院の理由となった傷病とは異なる傷病によって一般病床から退院手続きをし、院内の療養病床へ転床した場合、どれに該当するか。
------	--

(答) 「12 その他（不明等）」に該当します。
準備のために一旦家に帰宅した場合も含まれます。

問 84	「退院後の行き先」がグループホームや有料老人ホームの場合はどれに該当するか。
------	--

(答) 「11 社会福祉施設に入所」に該当します。

問 85	<p>「入院前の場所」と「退院後の行き先」が同じ市区町村かつ自施設のある市区町村と別であった場合、「退院後の行き先」の『1 「(10) 入院前の場所」で記入した市区町村と同じ』と『2 「(10) 入院前の場所」で記入した市区町村とは別』についてはどちらを選ぶべきか。</p> <p>(具体例) 自施設がA市にあり、入院前はB市の患者自宅にいた。 一方、退院後に入院（入所）する施設が自宅と同じB市にある場合</p>
------	---

(答) この例では、『2 「(10) 入院前の場所」で記入した市区町村とは別』を選び、退院後の行き先の施設がある市区町村(B市)を記入してください。

この補問は、「(10) 入院前の場所」で市区町村を記入した場合に、「(14) 退院後の行き先」で再度同じ内容を答える手間を省くために設置しています。よって、問のように「(10) 入院前の場所」と「(14) 退院後の行き先」が同じ市区町村であっても、前者で市区町村を記入しておらず、かつ当院と別の市区町村の場合には、『2 「(10) 入院前の場所」で記入した市区町村とは別』を選び、市区町村を記入します。

具体的には下記①②の条件を両方満たす場合、「(14) 退院後の行き先」では『2 「(10) 入院前の場所」で記入した市区町村とは別』を選んだ上で、退院後に入院(入所)する施設の市区町村を記入してください。

- ① 「(10) 入院前の場所」で「1~4」か「12」を選んだ、または「5~11」を選んだ上で「1 当院と同じ市区町村内」にしたことにより、市区町村の欄が空欄になっている
- ② 「(14) 退院後の行き先」が「5~11」であり、さらにその場所が「2 当院とは別の市区町村」である

<例> **入院前** A市の自施設に、B市の自宅から通院 かつ **退院後** B市の社会福祉施設に入所 の場合

(10) 入院前の場所	家庭 ① 当院に通院 2 他の病院・診療所に通院 3 在宅医療(訪問診療・訪問看護等) 4 その他 他の病院・診療所に入院 { 5 地域医療支援病院・特定機能病院 6 その他の病院 7 診療所 } 8 介護医療院に入所 9 介護老人保健施設に入所 10 介護老人福祉施設に入所 11 社会福祉施設に入所 12 その他(新生児・不明等) 「5」~「11」の場合は、その所在地について記入してください。 ↓ 1 当院と同じ市区町村内 2 当院とは別の市区町村	
	<input type="text"/> 都道府県 <input type="text"/> 市郡 <input type="text"/> 区町村	← ① 「(10)入院前の場所」の市区町村は空欄
+		
(14) 退院後の行き先	家庭 1 当院に通院 2 他の病院・診療所に通院 3 在宅医療(訪問診療・訪問看護等) 4 その他 「(13) 転帰」で「5 死亡」の場合は記入の必要はありません。 他の病院・診療所に入院 { 5 地域医療支援病院・特定機能病院 6 その他の病院 7 診療所 } 8 介護医療院に入所 9 介護老人保健施設に入所 10 介護老人福祉施設に入所 ⑪ 社会福祉施設に入所 12 その他(不明等) 「5」~「11」の場合は、その所在地について記入してください。 ↓ 1 当院と同じ市区町村内 ② 当院とは別の市区町村	
	↓ 1 「(10)入院前の場所」で記入した市区町村と同じ ② 「(10)入院前の場所」で記入した市区町村とは別 <input type="text"/> 都道府県 <input type="text"/> B市 <input type="text"/> 区町村	← ② 「(14)退院後の行き先」の5~11の場所が「2 当院とは別の市区町村」 ← 例え、「(10)入院前の場所」と同じ市区町村でも、2を選択し、ここを記入する。

その他

問 86

診療録(カルテ)に記載された情報を患者の同意なしに調査へ回答するのは、「個人情報の保護に関する法律」(以下「個人情報保護法」という。)に違反するのではないか。

(答) 一般に、個人情報の取扱いについては個人情報保護法により利用目的による制限(同法第18条)や第三者への提供の制限(同法第27条)が課せられています。しかし、患者調査は「統計法」に基づく基幹統計調査であり、個人情報保護法の「法令に基づく場合」という例外規定(第18条第3項第1号及び第27条第1項第1号)に該当するため、医療施設は患者本人の同意を得ることなく調査への回答が可能となります。

なお、「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス(平成29年4月14日、個人情報保護委員会・厚生労働省)」において、個人情報の取扱いについて具体的な留意点や事例等が示されています。

調査後のアンケートへのご協力をお願い

このたびは令和8年医療施設静態調査及び令和8年患者調査にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

今後の医療施設静態調査及び患者調査におけるオンライン回答（インターネット回答）の利用促進、調査方法等の改善の必要性を把握するため、アンケートによりご意見やご要望をお聞かせください。

なお、ご回答内容は、集計後に匿名化したうえで、今後の調査改善のための分析に活用いたします。
また、ご意見の一部を有識者会議の場で紹介させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■回答期限

令和8年12月25日（金）まで

■回答方法

- ①下記のURLまたはQRコードから、アンケート回答フォームへアクセスして、ご回答ください。
（令和8年10月1日よりアクセス可能となります。スマホ、タブレットからも回答できます。）

URL： https://www.mhlw.go.jp/form/pub/mhlw01/2026_sei_kan_voice



アンケート回答フォーム QR コード

- ②回答の入力が終わったら、最下部の**確認**ボタンを押してください。

- ③入力内容が表示されますので、

入力した内容に問題がない場合は、最下部の**登録**ボタンを押して終了です。

入力した内容を修正する場合は、最下部の**戻る**ボタンを押して修正してください。

アンケート

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。